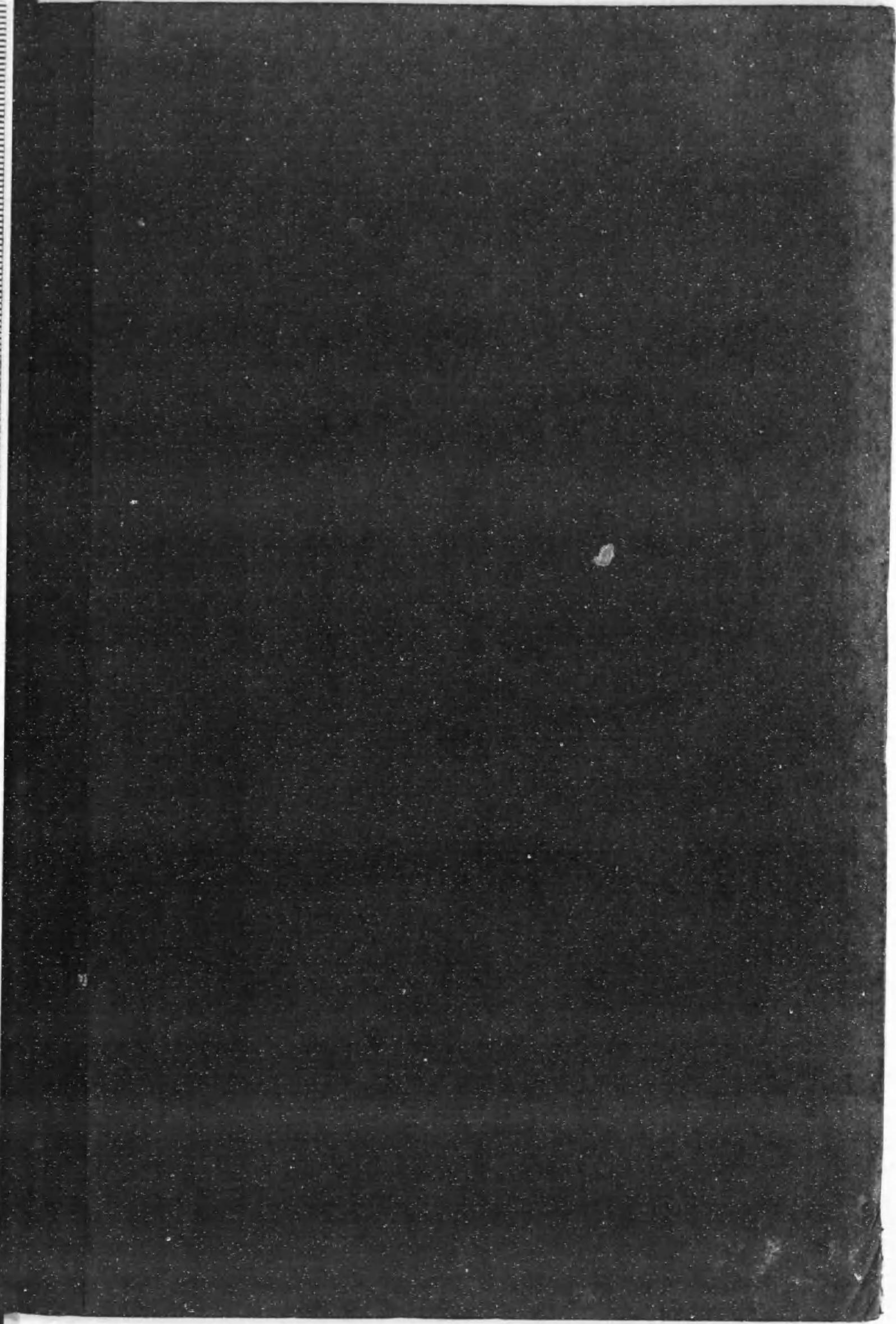




始



特219
726



教育總監部認定

英語講義

陸軍士官學校教官

黒川越太郎述



C O N T E N T S

I	字 母	1
II	羅 馬 字	4
III	綴字法及發音法	8
LESSON	I (第一課)	18
"	II (第二課)	22
"	III (第三課)	27
"	IV (第四課)	31
"	V (第五課)	38
"	VI (第六課)	45
"	VII (第七課)	50
"	VIII (第八課)	57
"	IX (第九課)	61
"	X (第十課)	69
"	XI (第十一課)	73
"	XII (第十二課)	77
"	XIII (第十三課)	84
"	XIII (第十四課)	90
EXERCISE	I (練習第一)	21
"	II (練習第二)	26
"	III (練習第三)	31
"	IV (練習第四)	44
"	V (練習第五)	49
"	VI (練習第六)	56
"	VII (練習第七)	61
"	VIII (練習第八)	68
"	IX (練習第九)	73
"	X (練習第十)	77
"	XI (練習第十一)	83

英

語

は し が き

- 一 語學は元來耳より傳へて口に發する練習から始めねばならぬものであるのに目に訴へる講義録で學び始めようとするのは至難の業ではあるが、本講義録は説明を出来るだけ明確適切にして容易に理解せしむるつもりであるから、讀者はこれを熟讀玩味して自ら工夫し、又講義の進むに従ひ、或は英文を暗誦し或は朋友互に英語で問答を交換する等、努めて多く練習をするやうに心掛けられたいものである。
- 二 羅馬字や綴字法から始めるのは迂遠な舊式と思ふものもあるかも知れないが目より覺える速成の自習法としてはこれが唯一の捷徑であるから、初學者は先づこの二つをよく覚え込むやうに努力せねばならぬ。これに熟達すれば後は苦なしに進歩するものである。
- 三 本講義録の發音讀方は、發音符號の外に片假名、平假名を併用してこれを示してある。その約束と説明とをよく玩味し工夫して練習せられたい。但し振假名は到底不完全を免れぬから、號を逐ふに従ひ漸次假名を離れて多く發音符號を用ふるやうにしたいと思ふ。讀者もその心得で居られたい。
- 四 發音符號は、文部省檢定済の中等學校英語教科書の殆んど全部と既刊辭書の大抵がウェブスター式であるから、讀者が是等の書物を参照する場合の便利を顧慮して、本講義録の發音符號はウェブスター式に據つてゐる。尙ほ萬國音標文字と稱する符號は最も理論に適したものであるから、それは適當の時機に於て示すこととする。
- 五 初學者に習字の練習の必要なことは言ふまでもないが、本講義録は詳細な手本を示してその練習を課する暇がないから、讀者は書店に就いて英習字帖を求め自ら進んでその練習をするやうにせられたい。
- 六 講義の進むに従つて應用練習問題を出すから、それは必ず省かずに練習することに努められたい、その練習をやればやるほど興味も増し學力もメキメキ上達するものである。
- 七 本講義録所載の材料は總べて實生活と密接な關係のあるものを選び選んである。故に讀者能く之に通曉すれば、忽ち實際に役だつものであるが、たゞその單語だけ覺えても大に利益する所があらうと思ふ。

I 字 母 (ALPHABET)

宇宙間の萬物が酸素、水素、炭素などいふ若干の元素から成つてゐると同様に、十何萬といふほどの語數の豊富な英語も之を文字に寫せばABC等わづか二十六文字の組合せから成るのである。つまり此の二十六文字は英語の元素であるから丁度化學を學ぶときに元素の名を覺える必要がある如く、英語を學ばんとするものは先づ此の二十六文字の名稱を知らねばならぬ。

此の二十六文字はこれを總稱して字母 (Alphabet) と稱し大文字、小文字の二型あり。更にその各々に印刷體と筆記體とがある。印刷體は書籍、新聞、雜誌等の印刷物に用ふる字體で専ら讀み物用のものである。筆記體は讀んで字の如く専ら筆記用のものであるから讀者は一刻も早くこれを書き習ひて自家筆記の用に供せねばならぬ。

以下示す所のものが英語の字母である。その各々の左側は印刷體で右側は筆記體である。最左側に付したる番號順に假名の通り讀み行きて暗記するがよろしい

この他 *Italic* と稱して傾斜型の文字もあれど容易に自得し得る程度の字體であるゆゑ茲には略す。

	小文字	大文字	名稱		小文字	大文字	名稱
1.	a	A	エイ	12.	l	L	エル
2.	b	B	ビー	13.	m	M	エム
3.	c	C	シー	14.	n	N	エヌ
4.	d	D	ディー	15.	o	O	オー
5.	e	E	イー	16.	p	P	ピー
6.	f	F	エフ	17.	q	Q	キュー
7.	g	G	ジー	18.	r	R	アール
8.	h	H	エイチ	19.	s	S	エス
9.	i	I	アイ	20.	t	T	ティー
10.	j	J	ジェイ	21.	u	U	ユー
11.	k	K	ケイ	22.	v	V	ヴィー

- 23. W *wa* W *W* ダブルユー
- 24. X *x* X *X* エックス
- 25. y *y* Y *Y* ワイ
- 26. z *z* Z *Z* ゼット

以上二十六文字の中で a e i o u を母音字 (vowels) と稱し、他の文字を子音字 (consonants) と稱する。w と y は時として母音に用ひらるゝこともあるが大抵は子音として用ひられる。

こゝに注意すべきは以上のエイ、ピー、スィー等は單に文字の名であつて決して音を表はすものではないといふことである。讀者は直に A B C は我が「いろは」と同じ様なものと思ふであらう。しかし我が「いろは」は字と音が一致してゐるけれど、A B C は字と音が一致してゐない。例へば「い」といふ假名は「い」といふ名稱であると同時に「い」といふ音を表はしてゐる。然るに A は唯エイといふ名稱であるのみで、その音は種々様々に變化して一定しない。時としてはアともなり、時としてはオに似た音をも表はし、又時としてはエに似た音にも用ひられる。B C 等の子音字に至りては單獨では何の音をも表はすことはない。種々の文字と組合はされて初めて發音さるゝものであつて、そのピー、スィーといふのは單にこれ等の名に過ぎないのである。こゝが我が「いろは」と異なる點である。故に以上エイ、ピー、スィー等の読み方は唯各々の字の名稱を示したゞけのもので丁度或る元素を名づけて水素と稱し、或る元素を酸素と名づくるが如きものである。酸素と水素が合して水となり、酸素と窒素が合して空氣となる如く、文字が種々に組合はされて然る後初めて様々の發音をなすものであることを心得置かねばならぬ。

字母を一讀すると氣が付くであらうが、形の類似した文字がなかなか澤山ある例へば小文字の n と u と、筆記體の l と r と、g と q と、大文字の I と小文字の l との如きはその例である。けれども少しく注意して見れば容易に區別し得るであらう。即ち n と u とは上下轉倒と見れば大過なく、l は r より丈高く、I と l とは餘程似てゐるけれども、よく見ると I は冠と履とを立派に着けてゐるが l の方は履ばかりで冠は略式といつた様な貧弱なものを着けてゐる。その他 db, qp なども往々にして見違へられる字形であるが、一方は腹が膨れてゐるのに一方は背が隆起してゐるから段々見慣れれば區別し得るに至るであらう。斯く注意してゆけば大文字、小文字、印刷、筆記いづれの字體でも些の努力で容易に覺え得るゝであらう。下に字形の類似したものが集めてあるから、それを識別する練習をなすも亦一興であらう。

d	e	l	h	O	B	E	l	h	h
b	c	i	n	C	R	F	v	h	f
p	o	j	u	G	P	T	e	w	g
q	l	d		h	g	Y	i	u	g
	g	w		h	g		r	g	

字母の實用 數學や理化學を學ぶにあたりて符號として用ひらるゝ英字が讀めなかつたら講義を聽くに不便であることは勿論、近頃の運動競技場などは觀覽席の番號が A B C 順に付けてあり、又學校の何年級何組といふ番號も A B C 順になつてゐる所が大分多くなつて來たから、此の際字母が讀めないものは非常にまごつくことであらう。此の如く字母の知識は實社會と段々密接に關係して來るのである。特に字母を覺えたものゝ享受する興味と實益とは種々の略字を讀み得る點にある。例へば時計の遲速を調節するとき F の方へ押せば進み、S の方へ押せば後れることは知つてゐるであらう。成る程 F は何といふ字か、S は何と讀むのか知らんでも自然に調節の工合を悟つては居らうが、F はエフといふ字であり、S はエスといふ字であると讀み得たら興味が深からう。而して更に F は英語の Fast (速) の頭文字、S は同じく slow (遅) の頭文字だと知つたら尙ほ一層の興味を覺えるであらう。又寒暖計の上部に記してある英字の一は華氏を表はし、他の一は攝氏を表はすことは自然に知つてゐるであらうが、一方の字はエフ、他の一方はスィーと讀めたら、假令その本字の Fahrenheit や Centigrade を知らなくとも、愉快に感じはしないであらうか。斯様にして略字の知識を得ることは興味と實益とを兼ねたものであるから下に數例を掲ぐることにする。

- ¥ 1,000 これは千圓といふことで ¥ は圓 (Yen) を表はす。
- No. 3 No. はナンバーと讀む。No. 3 で第三番又は第三號といふ意。
- W. C. これは廁の意。ダブルユー、スィーと讀んでよし。
- a. m. } a. m. は午前、p. m. は午後の意。8 a. m. とあつたら午前八時、3.25 p. m. は午後三時二十五分の意。これは時間表などに屢々見る書き方である。
- p. m. }
- c/o 何某方の「方」又は何々氣付の「氣付」の意。これは郵便封筒の上にて見られる場合であらう。
- O. K. 「よろしい」「間違なし」の意。
- N. C. O. 下士 (noncommissioned officer) の略字。

II 羅 馬 字

羅馬字文は英語ではない。羅馬字文は假名又は漢字交り文で日本語を綴る代りに^{アルファベット}Alphabetを用ひて日本語を綴つたものに過ぎない。けれども其の綴り方に慣れれば自然と英語の綴り方や發音法が分かり、本當の英語を學ぶ捷徑ともなり、且又英字と親しみ、英語を學ぶ興味を喚起するものであるから先づこれを掲ぐることにした。

羅馬字にもいろいろ種類があつて理論的には優つてゐる形式のものもあるが可といつても、現今我が國に最も普遍に行はれてゐるのは所謂ヘボン式といふ羅馬字で、停車場の驛名札にも商店の看板にも又は商品の名稱廣告などにも広く用ひられてゐるのは此の式であるから讀者はこれを覚えるのが最も實用に適するであらうと思ひ、以下ヘボン式の羅馬字を五十音圖に配當して掲ぐることにした。

五十音圖 (清音)

母音 子音	ア a	イ i	ウ u	エ e	オ o
k	カ ka	キ ki	ク ku	ケ ke	コ ko
s	サ sa	シ shi *	ス su	セ se	ソ so
t	タ ta	チ chi *	ツ tsu *	テ te	ト to
n	ナ na	ニ ni	ヌ nu	ネ ne	ノ no
h	ハ ha	ヒ hi	フ fu *	ヘ he	ホ ho
m	マ ma	ミ mi	ム mu	メ me	モ mo
y	ヤ ya		ユ yu	エ ye *	ヨ yo
r	ラ ra	リ ri	ル ru	レ re	ロ ro
w	ワ wa				ヲ wo

羅馬字では母音字 a, i, u, e, o は丁度我がアイウエオに相當する。これに k, s, t, n, h, m 等の子音字を組合せて五十連音が出来るのである。然らば k と a と組合はせて如何して「カ」といふ音が出るかといふに、「ケイ」は前にも述べた通り單に k の名であつて、その音を表はすものではなく、唯カ行の音の出る源を表はすに過ぎないのである。輕便的には「ク」の短い音を出すものと考へればよい。即ち ka はク+ア=カと思つてよい。サ行以下各行とも子音 s, t, n 等はウ列の音ス, ツ, ヌ等の短かいものと見たらば大抵合點がゆかう。

その例 ス+ア=サ ム+ア=マ ヌ+ア=ナ ス+エ=セ ム+エ=メ

ヌ+イ=ニ

然かし、尙ほ一層精しく理解せんとせば吃音者(ドモリ)を觀察するがよい。彼れは「カ」といはんとしても中々その音が出せない。口の奥で頻りに「カ」でもなく「ク」でもなく「コ」でもない音即ち單にカ行の音の元となる響を出して苦しんでゐる。この響は假名のカカで寫すことも出来ずククでもココでも寫せないが、この響を寫したものが k k k k であると思へばよい。やがて吃音者が努力の結果ア(a)の音を喉から出すと、これがkと合して初めてka即ち「カ」といふ音になるのである。他の行に就いても同様で、例へばマ行の音を出さんとすればマでもムでもない音を唇頭に響かしてゐる。即ちmm mmといつてゐるが、やがて「ア」とか「イ」とかいふ音を出し得ると初めてマ(ma)とかミ(mi)とかなるのである。此の點に合點がゆけば五十連音全部の構成がよく解かるであらう。而して本當の英語の發音に於ても矢張同じ呼吸でゆけるのであるといふことを悟つて置かれたい。

表中 *印を附したるものは特別の音であるために 同行の他の字のやうに綴ることの出来ないものである。即ちシを si と綴ればスィとなるから已むなく後に示す拗音の sh を借りて來て shi と綴るのである。又チ, ツも ti, tu と綴つては我々の音を表はさないから餘儀なく chi, tsu と綴るのである。次にフは hu では矢張日本の音を表はさないから fu と綴るのである。ヤ行とワ行の斜線を引いた音は昔は存在したのであらうが現今は實際上消滅した音であるから、これはア行のイウエを用ふればよい。唯時としてヤ行のエ(y^e)とワ行の(wo)とは用ひらるゝ場合もあるから *印を附して残して置いたが、これ等とても今は段々消滅し行き實際上ヤ行はヤユヨだけ、ワ行はワだけ覚えて置けば事足る次第である。

以下五十音 (清音) から成る言葉の羅馬字綴の例を示さう。

- 秋 aki 冬 fuyu 絲 ito 支那 Shina 皿 sara 海 umi
- 槍 yari 横濱 Yokohama 傘 karakasa 習志野 Narashino
- 鹿 shika 野原 nohara 家康 Ieyasu 河 kawa 時計 tokei
- 頼朝 Yoritomo 土 tsuchi 豊臣 Toyotomi 瀧 taki 俵 tawara
- 熊本 Kumamoto 蟬 semi 弓矢 yumiya 廣島 Hiroshima
- 餅 mochi 紫 murasaki 下之關 Shimonoski

【注意】 地名、人名等の頭文字には大文字型を用ふる。

練習

試みに次の漢字を羅馬字に直し、羅馬字を漢字に直せ。

ike 魚 tsuki 米 kusuri shima 西 kita
 山 chiri 雪 natsu 春 信濃 義経 兵卒
 rekishi 愛知 青森 和歌之浦

以上は清音に就いてある。次に濁音、半濁音及び拗音の綴方を示さう。

濁音及半濁音

g	ガ	ga	ギ	gi	グ	gu	ゲ	ge	ゴ	go
d	ダ	da	ヂ	ji *	ヅ	zu *	デ	de	ド	do
z	ザ	za	ジ	ji *	ズ	zu *	ゼ	ze	ゾ	zo
b	バ	ba	ビ	bi	ブ	bu	ベ	be	ボ	bo
p	パ	pa	ピ	pi	プ	pu	ペ	pe	ポ	po

*印を附したるヂとジ及びヅとズは某々地方では立派に區別して發音してゐるけれども、東京はじめ多くの地方では最早その區別が消滅して實際上同じ發音をしてゐるから、ダ行の di, du ザ行の zi では其の音を寫すことが出来ないから、ヂジは區別なしに拗音の ji を借りて來て用ひ、ヅズは區別なしに zu を用ふるのである。

次に濁音の綴方の例を示す。

東 higashi 座敷 zashiki 鞆 abumi 緑 midori
 齒磨 hamigaki 壁 kabe 火鉢 hibachi 大工 daiku
 手袋 tebukuro 野邊 nobe 手紙 tegami 瓦斯 gasu
 字引 jibiki 雀 suzume 徳川 Tokugawa 赤子 akago
 山田 Yamada 代々木 Yoyogi

練習

- (1) 馬場 (2) unagi (3) 油 (4) fuigo (5) 硯
- (6) bara (7) 蝦 (8) gamaguchi (9) 筆 (10) tabako
- (11) 弟子 (12) Shizuoka (13) 水 (14) daigaku (15) 武器
- (16) Hideyoshi

次は拗音

拗音

ky	キ	kya		キ	kyu		キ	kyo	
sh	シ	sha	シ(shi)	シュ	shu	シ	she	シ	sho
ch	チ	cha	チ(chi)	チュ	chu	チ	che	チ	cho
ny	ニ	nya		ニ	nyu		ニ	nyo	
hy	ヒ	hya		ヒ	hyu		ヒ	hyo	
my	ミ	mya		ミ	myu		ミ	myo	
ry	リ	rya		リ	ryu		リ	ryo	
gy	ギ	gya		ギ	gyu		ギ	gyo	
ji	ジ	ja	ジ(ji)	ジュ	ju	ジ	je	ジ	jo
by	ビ	bya		ビ	byu		ビ	byo	
py	ピ	pya		ピ	pyu		ピ	pyo	
kw	ク	kwa							
gw	グ	gwa							

表中チ行があつてジ行がないが、これは等しく ja 行で寫して區別しない。又括弧に入れたものは既に前に掲げたものゝ重複たることを示す。

鼻音長音及び促音

鼻音即ち「ン」には n を充てる。例へば士官 shikan 珊瑚 sango 等。但し bpm の前に來る「ン」に限り m を用ふる。例へば産婆 samba 官報 kampo 按摩 anma の如くである。

長音は母音字の上へ横線一を施して示す。但しハを施すこともある。例へば郵便 yūbin 教師 kyōshi 朝鮮 Chōsen 將軍 shōgun

促音とは學校(ガッコー) 喇叭(ラッパ) 北海道(ホッカイドー)の如く假名のツを用ひてつまる音を表はすものをいふ。しかし羅馬字ではツ(tsu)を用ひてはならぬ。此の場合には子音字を重ねればよいのである。例へば學校(gakkō) 喇叭

(rappa)北海道 (Hokkaido) 等の如くである。但し、丁稚 (デッチ) 一町 (イチョー) 薩長 (サッチョー) の如くちに續く場合には ch の前に t を入れて促音を示す。此の場合に ech とせぬやうに注意せねばならぬ。例へば、丁稚 (detchi) 一町 (itcho) 薩長 (Satcho)

以下拗音、鼻音、長音、促音等の混入せる綴方の例を示す。

活版	kappan	新聞	shimbun	電報	dempo	日本	Nippon
少將	shōshō	文明	bummei	人形	ningyō	上長官	jōchōkan
山脈	sammyaku	民法	mimpō	戦争	sensō	公園	kōen
病院	byōin	合羽	kappa	専門	semmon	運動	undō
廊下	rōka	發着	hatchaku	女	onna	柔道	jūdō
柔弱	nyūjaku	佛教	bukkyō	一貫目	ikkamme	貧乏	bimbō
一俵	ippyō	三百匁	sambyakumomme	鐵砲	teppō		
二俵	nihyō	兵庫	Hyōgo	九州	Kyūshū	三俵	sambyō
服部	Hattori	札幌	Sapporo	琉球	Ryūkyū	臘納獸	ottosei
越中	Etchū						

練習

- (1) 船 (2) 夢 (3) 坂 (4) 原 (5) 笛 (6) minato (7) kosui
- (8) yuri (9) hitsuji (10) Nogi (11) 吹雪 (12) 水野 (13) 源氏
- (14) 鳥取 (15) 日向 (16) Mikasa (17) Tōgō (18) Asahigawa (19) 醬油
- (20) 自動車 (21) 飛行機 (22) 煖爐 (23) 扇風機 (24) danyaku
- (25) Tōkyō (26) shūkyō (27) benkyo (28) hyōban (29) byōki
- (30) tenki (31) 屏風 (32) 碁盤 (33) 萬年筆 (34) 寫眞 (35) Kyōto
- (36) Nikko (37) 醫者 (38) 商業 (39) 辯護士 (40) 軍人 (41) hyakushō
- (42) nyūgaku (43) nyōbo (44) myōyaku (45) sampo (46) 見物
- (47) 卒業 (48) 講習會 (49) 就職 (50) 任官 (51) 中央線
- (52) 常磐線 (53) 關釜連絡線

III 綴字法 (SPELLING) 及發音法 (PRONUNCIATION)

前に述べた如く字母二十六文字が種々に組合はされて總ての英語が出来る。此の組合せ方を名づけて綴字法 (Spelling) といふ。以下その最も簡單なものから

逐次掲出しよう。

(一) 子音字の次に母音字を置く組合せ。

此の場合の母音は羅馬字と異り、文字の名稱通りに a(エイ) e(イー) i(アイ) o(オウ) u(ユー) と發音する。(aをエーと發音したり、oをオーと發音してはならぬ) その發音符號としては-を母音字の上に附する。子音字に関する要領は、羅馬字の處で説明した吃音者の發音の工合を参考にせられたい。即ち一例を挙げれば pa は p p p の p に a(エイ) を加へたのだから「ペイ」となり、pe は p に e(イー) を加へるから「ピー」と發音する。同様に次の pi は「パイ」、po は「ポウ」、pu は「ピュー」となるのである。

こゝに注意して置くことは此の練習をなすには、先づ文字の名稱を呼び上げて然る後その組合せて出来た音を發音するやうに習慣をつけるべきことである。例へば pa は「ピー、エイ……ペイ」と呼ぶの類である。

	ā	ē	ī	ō	ū
p	ペイ pa	ピー pe	パイ pi	ポウ po	ピュー pu
b	ベイ ba	ビー be	バイ bi	ボウ bo	ビュー bu
t	テイ ta	ティー te	タイ ti	トウ to	チュー tu
d	デイ da	デー de	ダイ di	ドウ do	デュ du
k	ケイ ka	キー ke	カイ ki	コウ ko	キュー ku
g	ゲイ ga	ギー ge	ガイ gi	ゴウ go	ギュー gu
f	フェイ fa	フィー fe	ファイ fi	フォウ fo	フュー fu
v	ヴェイ va	ヴェー ve	ヴァイ vi	ヴォウ vo	ヴュー vu

【注意】 v は日本にない音である。上歯で下唇を口中に巻き込み加減に抑え、その間から息をきしませて出せば f が出来、聲をきしませて出せば v が出来る。此の時上唇を下唇に觸れしめてはならぬ。v は恰も輔(フイゴ)の音に似た音を出すのである。假名ではヴを用ひることに約束して置く。

	セイ	スー	サイ	ソウ	スー
sa	se	si	so	su	

z	ゼイ za	ズー ze	ザイ zi	ゾウ zo	ズー zu
sh	シェイ sha	シー she	シャイ shi	ショウ she	シュー shu
ch	チェイ cha	チー che	チャイ chi	チョウ cho	チュー chu
j	ジェイ ja	ジー je	ジャイ ji	ジョウ jo	ジュ ju
th	セイ the	シ the	サイ the	ソウ tqo	シュー thu
th	ゼイ tha	ヒー the	ザイ thi	ゾウ tho	シュー thu

【注意】 th は舌端を上歯と下歯の間に挿み、スといふ如く發音すれば清音の th となり、ズといふ如く發音すれば濁音の th が出る。恰も舌の長い人のスズに似た音である。濁音の符號には t と h との間に一を施して th とする。假名では便宜上「す」と「ず」で表はす約束にして置く。随つて振假名のやうになることを了解して貰ひたい。

w	ウェイ wa	ウィー we	ウィイ wi	ウォウ wo
wh	ウェイ wha	ウィー whe	ウィイ whi	ウォウ who

【注意】 wh は hw の如く又は殆んど w の如く發音する。

h	ヘイ ha	ヒー he	ハイ hi	ホウ ho	ヒュー hu
l	レイ la	リー le	ライ li	ロウ lo	リュ lu
r	レイ ra	リー re	ライ ri	ロウ ro	ルー ru

【注意】 l は舌端を上歯の付け根に堅く當てたまゝ動かさず、舌の両側から息を通らせながらルに似た軽い音を出す。この時舌端を振動させると r になる恐れがあるから吳々も舌端を振動させてはならぬ。r は舌端を上歯に巻くやうにし、上歯の裏の齦(ハグキ)の近くで振動させながらルの強い音を出す。羅馬字ではラ行に r を充てゝゐるけれども英の ra, re……等は「レイ」「リー」……等よりも一層巻き舌な強い音で寧ろ「*レイ」「*リー」……などで表はす方が近いかも知れぬ。

r の次の u はウーと發音する。その符號に .. を u の下に附けてあるから注

意を要する。

本講義では r を片假名、l を平假名で表はして區別することの約束にして置く。

n	ネイ na	ネー ne	ナイ ni	ノウ no	ニュー nu
m	メイ ma	ミー me	マイ mi	モウ mo	ミュー mu
y	イェイ ya	イー ye	—	ヨー yo	ユ yu
qu	クエイ qua	クイー que	クワイ qui	クウォ quo	—

【注意】 上例中一を引いたものは實際英語にない綴であるから省いた。

以上の外 e は下の如く不規則であり、又 g は前に擧げた例の外に下の如き不規則のものもある。

e	ケイ ea	スイー ge	サイ gi	コウ eo	キュウ eu
g	ゲイ ga	ディー ge	ヂェイ gi	ゴウ go	ギュー gu

(二) 以上は子音字が大抵一つであつたが、これが二乃至三つになつても同じ要領で發音する。

ブライ	ブレ	ブリ	ブロウ	ブリュー	ブリ
blā	blē	blī	blō	blū	blȳ
プレイ	プレ	プリ	プロウ	プルー	プリー
pra	pre	pri	pro	prū	prȳ
ストレイ	ストリー	ストライ	ストロウ	ストルー	ストリー
stra	stre	stri	stro	strū	strȳ
スクレイ	スクリー	スクライ	スクロウ	スクルー	スクリー
sra	sere	seri	scro	scrū	sery
スプレイ	スプリー	スプリー	スプロウ	スプルー	スプリー
spla	sple	spli	splo	splū	splȳ
スマイ	スミー	スマイ	スモウ	スミュー	スマイ
sma	sme	smi	smo	smū	smȳ
ドレイ	ドリー	ドレイ	ドロウ	ドルー	ドリー
dra	dre	dri	dro	drū	drȳ
スクワイ	スクワイ	スクワイ	スクウォウ	—	—
squa	sque	squi	squo	—	—

【注意】 こゝの y は母音に用ひられた例である。

(三) 母音字と e とで子音字を挟みたる組合せ。この場合母音字の音は(一)と同じく、そして e は無音字となる。又母音字の前に子音字が加つても同じ要

領で發音すればよい。

此の項に掲ぐる語は將來必要なものばかりであるから譯語を付して置く。序に暗記さるゝがよい。

- 1. \bar{a} ^{エイヂ}age(年齢) ^{ペイジ}page(頁) ^{ネイム}name(名) ^{フェイス}face(顔) ^{セイム}same(同じ) ^{テイク}take(取る)
- ^{レイク}lake(湖) ^{ケイジ}cage(籠) ^{シェイム}shame(耻) ^{スネイク}snake(蛇)
- \bar{i} ^{アイス}ice(氷) ^{タイム}time(時) ^{ファイヴ}five(五) ^{マイル}mile(哩) ^{ライク}like(好む) ^{ライド}ride(乗る)
- ^{ライン}line(線) ^{シャイン}shine(照らす) ^{ワイフ}wife(妻)

【注意】 i. ^{タイプ}type(型) ^{スタイル}style(様式) の y は母音で、i と同じ發音をする。
 ii. 總て最初の假名に力を入れて發音せられたい。「スネイク」(蛇)はネに力を入れること。

- \bar{o} ^{ノウズ}nose(鼻) ^{ホール}hole(穴) ^{ボーン}bone(骨) ^{ロープ}rope(綱) ^{ホーム}home(家) ^{ポール}pole(竿)
- ^{ヴォート}vote(投票) ^{ストーヴ}stove(煖爐) ^{スポーク}spoke(話した) ^{ストーン}stone(石)
- \bar{u} ^{ユーズ}use(用ひる) ^{チューン}tune(調子) ^{チューブ}tube(管) ^{ミュール}mule(驢馬) ^{ジュン}June(六月)
- ^{キューブ}cube(立體) ^{デューク}duke(公爵) ^{ルール}rule(規則)

【注意】 i. rule の u は r の次だから \bar{u} (ウー) と發音する。
 ii. ストウヴ(煖爐)はトに力を入れて發音する。

2. 母音字と e で r を挟むときは、母音字の發音が少し變る。此の時の a はエイでなくエアの複合音となる。その他の母音字は下の例にて悟られたい。

- \hat{a} ^{ケア}care(注意) ^{マール}mare(牝馬) ^{ハール}hare(兎) ^{ラール}rare(稀なる)
- \hat{e} ^{ヒア}mere(單なる) ^{ヒア}here(此處) ^{スフィア}sphere(球形) [フゝに力を入れる]
- \hat{i} ^{ファイア}fire(火) ^{ワイア}wire(銅線) ^{タイア}tire(疲れる) ^{ハイア}hire(雇ふ)
- \hat{o} ^{オー}ore(原鑛) ^{モア}more(尙ほ多く) ^{ストア}store(店) [トに力を入れる] ^{ショア}shore(岸)
- \hat{u} ^{ピュア}pure(純粹の) ^{キュア}cure(療治する) ^{デュア}dure(耐へる)

【附】

- $\left. \begin{matrix} ai \\ ay \end{matrix} \right\} = \bar{a}$ ai は子音止りの語にても \bar{a} と同音。ay は語尾にあつて \bar{a} と同音
- ^{エイド}aid(助け) ^{エイム}aim(狙ひ) ^{セイル}sail(帆) ^{メイ}mail(郵便) ^{テイル}tail(尾) ^{デイ}day(日)

- ^{ベイ}bay(灣) ^{セイ}say(言ふ) ^{レイ}lay(置く) ^{ウェイ}way(道)

ee } = \bar{e} ee, ea は子音止りの語にても \bar{e} と同音。但し ea はエとなること
 ea } もある。その例は後に譲る。

- ^{ビー}bee(蜜蜂) ^{シー}see(見る) ^{イール}eel(鰻) ^{フィール}feel(感じる) ^{ディープ}deep(深い) ^{シー}sea(海)
- ^{ティー}tea(茶) ^{イーブ}eave(軒) ^{イート}eat(食ふ) ^{ティーチ}teach(教へる)

oa = \bar{o} この場合の a は無音字。

- ^{ロード}road(道路) ^{ボート}boat(端艇) ^{コーチ}coach(馬車) ^{コート}coat(上衣)

ew = \bar{u} r の次の ew は \bar{u} (ウー) となる。

- ^{ニュー}new(新しい) ^{フェウ}few(少數の) ^{デュー}dew(露) ^{クルー}crew(乗組員) ^{ドリュー}drew(引いた)
- ^{グrew}grew(成長した)

oo = \bar{u} oo はウーと發音する。又 oo(ウッ) と短く發音するときもあるが、その例は後に譲る。

- ^{ムーン}moon(月) ^{ヌーン}noon(正午) ^{ルーム}room(室) ^{ブーツ}boot(靴)

(四) 母音字の次に子音字を置く組合せ。

此の場合の e, i はエ、イと略ぼ同じくして短く發音する。けれども a は稍々異なる。これはエといふときの口をして、下顎を後ろに引きながらアと短く發音する。つまり、エとアと合併した音である。丁度某々地方の人が大臣(ダイジン)を(デアジン)といふやうに、ダとデの間の發音をするのを参考にしたらばよからう。

下の振假名にはアを用ひてあるけれども勿論不完全であるから、以上の説明に従つて發音の工夫をするがよろし。

o はアの音の出るとき程までに口を開き、下顎を十分に下げてオの音を出すと此の音が出来る。口を圓く狭ばめてオとやつてはいかぬ。此の振假名にはオが用ひてあるが、これも不完全であるから上の説明によりて工夫せられたい。

u はアの頭へオを少しく冠らせて發音すればよい。その振假名も不完全であるから説明に基いて工夫せられたい。

こゝの母音字の發音符號は \bar{u} をその上に施す。

\bar{a}	\bar{e}	\bar{i}	\bar{o}	\bar{u}
アップ	エップ	イップ	オップ	アップ
ap	ep	ip	op	up

アッブ	エッブ	イッブ	オッブ	アッブ
ab	eb	ib	ob	ub
アム	エム	イム	オム	アム
am	em	im	om	um
アンヌ	エンヌ	インヌ	オンヌ	アンヌ
an	en	in	on	un
アフ	エフ	イフ	オフ	アフ
af	ef	if	of	uf
アヴ	エヴ	イヴ	オヴ	アヴ
av	ev	iv	ov	uv
アット	エット	イット	オット	アット
at	et	it	ot	ut
アッド	エッド	イッド	オッド	アッド
ad	ed	id	od	ud
アック	エック	イック	オック	アック
ak	ek	ik	ok	uk
アック	エック	イック	オック	アック
ae	ee	ie	oe	ue
アグ	エグ	イグ	オグ	アグ
ag	eg	ig	og	ug
アス	エス	イス	オス	アス
as	es	is	os	us
アズ	エズ	イズ	オズ	アズ
az	ez	iz	oz	uz
アル	エル	イル	オル	アル
al	el	il	ol	ul
アー(ル)	アー	アー	オー(ル)	アー
ar	er	ir	or	ur

【注意】 ar は假名でアー(ル)と記して置いたが、日本語のアーよりは一層廣く口を開いて發音し、ルは殆んど發音せぬ。or の場合のルも同様である。その意味でルを括弧内に入れて置いたのである。

er, ir, ur は殆んど同じ音で、喉でアともオともつかぬ曖昧な音を出すので、それも矢張ルは通例消えてしまふ。その記號は〜で付けてある。

アックス	エックス	イックス	オックス	アックス
ax	ex	ix	ox	ux
アッチ	エッチ	イッチ	オッチ	アッチ
aj	ej	ij	oj	uj
アッシュ	エッシュ	イッシュ	オッシュ	アッシュ
ash	esh	ish	osh	ush
アオ	エオ	イオ	オオ	アオ
ath	eth	ith	oth	uth
アング	エング	イング	オング	アング
ang	eng	ing	ong	ung

(五) 以上の綴の前後に子音字を加へても同じ要領で發音する。

此の項に掲ぐる語は將來必要なるものばかりであるから譯語を付して置く。序に暗記するゝがよい。

- ã — man(人) hat(帽子) map(地圖) tax(租税) hand(手) back(背)
- lamp(洋燈) stand(立つ)
- ô — egg(卵) hen(鶏) bed(寢臺) net(網) red(赤) ten(十) west(西)
- nest(巢) neck(頸) rest(休息)
- î — big(大きな) fish(魚) six(六) dish(皿) ship(船) sit(坐る)
- sick(病める) pin(留針) stick(杖)
- ô — dog(犬) god(神) ox(牡牛) stop(止まる) shop(店) top(頂上)
- pond(池) clock(柱時計)
- û — cut(切る) gun(銃) sun(太陽) shut(閉ぢる) gum(ゴム)
- duck(家鴨) jump(跳ねる) pump(ポンプ)

【附】 ea=ë

- head(頭) dead(死せる) lead(鉛) bread(パン) spread(擴げる)

(六) 1. ä (ア) と ä (アー)

- ask(問ふ) mast(檣) fast(速に) last(最後の)
- fäther(父) wärth(怒) cärd(札) stärr(星)

【注意】 r の前の w は無音字。

2. a (オ) と a (オー)

a を ô (オウ) と混同してはならぬ。ô はオ、ウの複合音であるが a は口を十分開き、下顎を下げて、オーと發音する。その短いのが a (オ) である。

- was(在つた) what(何) watch(懐中時計)

all(總て) tall(丈高い) wall(壁) small(小さい)[モに力を入れる]
 ball(球) talk(談話する) walk(歩く) chalk(白墨)

【注意】 l が二つあるときは一つだけ發音する。

lk の l は無音字。

【附】 au, aw=a

caught(捕へた) taught(教へた) jaw(顎) saw(鋸) hawk(鷹)

【注意】 gh は無音字。

3. oo=ウッ

book(書籍) cook(料理人) good(善い) wool(羊毛)

4. u (ウ) と u (ウー)

put(置く) push(押す) bull(牛) full(充滿した) pull(引く)

rule(規則) truth(眞理) blue(青)

この外まだ澤山あるが、追々實際の文を読む間に覚えることとして、こゝは一段落としよう。唯一言付け加へたいのは

syllable (音節) と accent (強音)

である。syllable とは一息に發聲する一音節をいふので、例へば d i f は、綴字法で習つた通り、dif と一息に發音が出来るから、dif で one syllable (一音節) を成してゐるのである。又 f e r は fer と一息に發音するから、これも一音節である。今この二つを結合すれば dif-fer といふ語が出来る。この語は二音節の語である。之れに e n t を加へて dif-fer-ent とすれば三音節の語となり、更に又 l y を加へて dif-fer-ent-ly とすれば四音節の語となることは説明するまでもなからう。斯くの如くして一音節、二音節、數音節等の區別も分かるであらう。

syllable (音節) の切り方は各音節の間に (-) [hyphen と稱す] を入れて示す。例へば dif-fer-ent-ly の如くである。

二音節以上の語になると、その音節中、どれか他の音節よりも力を入れて發音すべき音節が生じて来る。この力を入れて發音することが accent (強音) である例へば上記の differ といふ語は第一音節 dif を強く發音すべき語であるから、斯る語は第一音節に accent のある語と稱するのである。accent の記號は differ の如く、accent のある音節の終りの文字の肩に (') を付けて表はすこととする。若し一語にして二箇處に accent のある場合には一方に (') を用ひ、他の一方には (") を用ひて區別する。本講義録では (') の方が (") よりも稍と強い accent の記號なりと約束して置かう。accent は大切なもので、これが間違ふと、意味が全く通じなくなつたり、大なる誤解を生じたりするから疎略にしてはならぬ。これも追々實際の文を読む間に覚える事とし、愈々講義の本體に移ることしよう。

Lesson I (第一課)

1. This is wine. (1) (3) (2) これは ある 葡萄酒で

2. That is beer. (1) (3) (2) あれは ある 麥酒で

3. Is this tea? (3) (1) (2) あるか これは 茶で

4. Yes, it is tea. (1) (2) (4) (3) 然り それは ある 茶で

5. Is that coffee? (3) (1) (2) あるか あれは 珈琲で

6. No, it is not coffee. (1) (2) (4) (3) 否 それは あらぬ 珈琲で

7. What is it? (2) (3) (1) 何で あるか それは

8. It is chocolate. (1) (3) (2) それは ある チョコレートで

9. We drink tea from a cup. (1) (5) (4) (3) (2) 我々は 飲む 茶を で 茶碗

10. We drink wine from a glass. (1) (5) (4) 我々は 飲む 葡萄酒を from a glass. (3) (2) で コップ

【讀方】 全體に就いて

一、此處に出した語の振假名は、何れも皆最初の假名に力を入れて讀む。

二、へ記號を付けてある語は續けて讀む。

1 に就いて

is は綴字法では「イス」と發音したが、實際のときは「イズ」と濁つて發音する。2 以下の is も、今後出て来る is も、皆同様に「イズ」と發音する。

3 と 5 に就いて

yes (然り) 又は no (否) で答へらるゝ問は最後の語の調子を上げて讀む。

丁度日本語で物を問ひ返すとき、「エー？」といふ調子。

4 と 6 に就いて

4 の yes の次には (,) [コンマ] が打つてある。此のときは「イエス」と言つて一寸離し、然る後あとを讀む。6 の no を讀むときも同様に心得ること

7 に就いて

7 は yes (然り) と no (否) とともに答へられぬ問だから最後の語の調子を上げて讀んではいけない。

8 に就いて

chocolate は日本語では「れ」に accent (強音) を置くやうに聞かえるが、正しい英語の accent は第一 syllable (音節) の cho (チョ) に accent を置くのであるから注意を要する。

9 と 10 に就いて

a は調子を低くし、軽く「ア」と發音して、次の語と續けて讀むべき語である。此處では from a cup, from a glass と三語を續けて讀む。但し from a cup と glass とは強く讀む。

【解釋】 英語は言葉の順序が日本語と違ふ。そこで括弧内の數字の順を辿つて譯さねばならぬ。

1. This は「此」といふ語である。場合次第で「これは」とも、「これが」とも、又は「これを」「これに」「この」とも譯し得るが、此處では翻譯の都合で助辭の「は」を加へて「これは」と譯す。wine は屢々廣告で見る赤玉ポートワインなどのワインで、葡萄酒のこと。「で」は矢張和譯の都合で補足した助辭である。is は「ある」「あります」「御座います」「です」等いづれに譯してもよい。文語體ならば「なり」に當る。

2. That は「あれ」といふ語であるが、此處では和譯の都合で助辭の「は」を加へて「あれは」と譯す。日本語では手近の物を指すときは「これ」といひ話し相手の近くの物を指すときは「それ」といひ、其の他の物を指すときは「あれ」といふ。つまり三つの區別があるが、英語では自分の近くの物を指して this (これ) といひ、其の他は皆 That といふ。故に that は「それは」と譯す場合もある。beer は「ビール、ホール」のビールである。

3. 問をかけるときには This is の位置が轉倒する。そして文の終りに疑問點

(?) [インタ～ロゲイション、マーク] を付ける。3 は疑問文だから is に「か」を加へて「あるか」と譯す。

4. yes は「然り」「左様」「さうです」「さうであります」「はい」など何づれの譯もよし。it は「それ」と譯せど、that のやうに指して言ふほどの強い語ではないから、意譯するときは「それは」を略して全文を「ハイ茶です」と譯す方がよい。

5. That is の位置を轉換して is that とすると疑問文になることは 3 の is this の場合と同じである。coffee は珈琲のことである。日本流にコーヒーと讀んだり、カフェーと讀んではいけない。

6. no は「否」「いゝえ」どちらの譯でもよい。not は打消の言葉(否定語)で、「ない」の意である。故に is not で「あらぬ」「ない」「ありませぬ」「御座いませぬ」等いづれの譯でもよい。

7. what は「何」。「で」は和譯の都合で補足した助辭。これも疑問文であるから it is が轉換して is it となつてゐるが、その前に what が置いてある。what (何) はいつでも文の頭に置くべき語である。

8. chocolate は始めから長い語を出すと思ふかも知れぬが、實は諸君のよく御存じのチョコレートであるから一向六かしくはなからう。

9. we は「我々」「我等」「私共」「私達」、いづれの譯でもよい。「は」は例の助辭。

cup の日本語化した發音が「コップ」である。然し日本語で「コップ」といへば硝子製の盃又は水呑であるが、英語で cup といふと、陶器製のものをいふ。西洋では茶、珈琲、牛乳、チョコレート等總て熱くして飲むものは陶器製の cup で飲む習慣である。故に此處に出でゐる cup は我々日本人の所謂「コップ」ではない。

cup の前の a は文法で冠詞と稱し、凡そ數で數へらるゝ物が一つある場合には之れを付けるのである。「カップ」は一個二個と數で數へ得るから a を付けて其の一個なることを示す。之に反して wine, beer, tea, chocolate 等は

いづれも一個二個と數で數へられぬもの(文法上、物質名詞と稱す)であるから之れには冠詞の a を付けないのである。

from は「から」又は「より」の意。from a cup は直譯は「カップから」であるが、意譯して from を「で」と譯したのである。

10. glass は日本語の「ガラス」である。「ガラス」は數で數へられぬもの(物質名詞)であるが、此處では「ガラス」其の物ではなく、「ガラス」製の器即ち日本語でいふ「コップ」(硝子盃)の意であるから、冠詞の a を付けてある。酒類や水等冷たい物は glass で飲むのが西洋の習慣である。されば日本で用ひてゐる「コップ」といふ語の用法は英語の方からいへば間違つてゐるのだといふことを悟つて貰ひたい。

規則 一、凡そ文の始の語は大文字で書き始める。

二、文の終には普通の文ならば (.) [ピリオド又はフルストップと稱す] を付ける。

三、疑問文の終には (?) [インタ～ロゲイション、マーク] を付ける。

Exercise 1 (練習第一)

下の單語を本文の單語に代用して出来るだけ多く文を作ること。

下の單語は皆日本語化した英語であるが、振假名に従ひて正しく發音するやうに注意せられたい。

- soup(ソップ) milk(牛乳) butter(バター) ham(ハム) cheese(チーズ)
- sauce(ソース) jam(ジャム) cider(サイダー) whiskey(ウイスキー)
- brandy(ブランデー)

Lesson II (第二課)

1. Is this a cigar?
(3) (1) (2)
ですか これは 葉巻煙草

2. Yes, it is.
(1) (2)
はい さうです

3. Are these cigars?
(3) (1) (2)
ですか これ等は 葉巻煙草

4. No, they are not.
(1) (2)
いいえ さうではありません

They are cigarettes
(2) (1)
です 紙巻煙草

5. Where are the cigarettes?
(2) (3) (1)
何處に ありますか 紙巻煙草は

6. They are in the box.
(3) (2) (1)
あります の中に 箱

7. How many cigarettes
(2) (1)
幾本 紙巻煙草は

are there?
(3)
ありますか

8. One, two, three, four,
(1) (2) (3) (4)
一 二 三 四
five, six, seven, eight
(5) (6) (7) (8)
五 六 七 八
nine, ten.
(9) (10)
九 十

There are ten in all.
(4) (3) (2) (1)
あります 十(本)で 皆

9. To open this box
(3) (1) (2)
開くには 此 箱を

push this end.
(6) (4) (5)
押しなさい 此 端を

10. What is that box?
(3) (4) (1) (2)
何 ですか あの 箱は

11. That is a match box.
(1) (3) (2)
あれは です マッチ 箱

12. What is that thing
(5) (6) (3) (4)
何 ですか あの 物は

by the match box?
(2) (1)
のそばの マッチ箱

13. It is an ash tray.
(1) (3) (2)
あれは です 灰 皿

14. Where are those
(4) (5) (1)
何處に ありますか それ等の

two things?
(2) (3)
二つの 物は

15. Those are on
(1) (4) (3)
それ等は あります の上に
the table.
(2)
卓子

16. Strike a match and
(2) (1) (3)
すつて マッチを [そして]

light the cigarette.
(5) (4)
火を御つけなさい 紙巻煙草に

17. Light the cigar
(2) (1)
火を御つけなさい 葉巻煙草に

and smoke it.
(3) (5) (4)
そして お吸ひなさい それを

18. Knock the ash
(4) (3)
御はたきなさい 灰を
into the ash tray.
(2) (1)
の中へ 灰皿

- 【讀方】 1. a は軽く短く低い調子で cigar に付けて讀む。cigar は第二音節に「アクセント」を置いて發音する (çi-gär)。此の文は yes 又は no で答へられる間だから、文の終りの調子を上げて讀む。
2. Yes で一寸離し、it is は續けて讀む。それゆゑ it is は自然「イッティーズ」といふやうになる。
3. These の s と cigars の s とは濁つて讀む。記號で記せば thēs, çigärs となる。
4. No で一寸離し、あとは續けて讀む。not は幾分強く讀む。cigarettes は「スィ」に軽い「アクセント」を置き、「レッツ」に強い「アクセント」を置

く (çig'a-rèttes').

5. Where と are とを續けて讀むから、「ウェア(ル)」の隠れてゐた「ル」が次の母音の「ア」に誘ひ出されて現れて来て、「ウェアラー」といふやうになる。the は綴字法では「じー」と讀んだが、實際の文の中では軽く「ざ」と讀む。「ざー」と引つ張つたり、強く「ざ」と發音してはならぬ。「ざ」だか「ぜ」だか「ず」だか分からぬ位の低い軽い發音がよい。「じ」と讀む場合は 18 の説明を見よ。
7. こゝの問は文の終りの調子を上げてはいかぬ。
8. three. の th の音を正しく出すことに注意し、「リ」に力を入れて發音する。「フョーア」以下皆振假名の最初の假名に力を入れて發音する。
There の隠れた「ル」が次の「ア」に誘ひ出されて「ゼアラー」となることは where are のときと同様である。その次の ten と all は強くしつかり讀む。in all は續けて讀むから「インノーる」となる。
9. To は軽く短く「ト」だか「ツ」だか分からぬ位がよい。「トゥー」又は「ツ
オープン
ー」と長く引いてはならぬ。open の「オウ」は強く長く發音する。open,
ボックス プッシュ エンド
box, push, end, と皆強く讀む。
13. an を次の ash tray と續けて讀むから、「アナッシュトレイ」となる。
14. Those の s は濁る。two は強くしつかり讀む。things の s は濁る。
15. table は「ブ」を強く響かすと日本的發音となるから「テイ」に力を入れて發音する。但し「ブ」は兩唇をしつかりつけて發音する。
16. Strike は「ラ」を強く發音する。and の a は「エ」と「ア」の複合音ã であるから聴きやうによつては「エンド」にも「アンド」にも聴こえる。つまり其の中間音を出せばよい。但し「ヤンド」とやつてはいけぬ。light は「ら」を強く響かし「ト」は軽く短く、殆んど聞えない位でよい。
17. Smoke は「モ」を強く「ク」を軽く短く響かす。
18. Knock の K は無音。the は子音の前には「ざ」と發音し、母音の前には「じ」と發音する。この文の中で the と into は軽く讀む。

【解釋】 1. a は「一つ」の意。cigar (葉巻烟草) は一本二本と數で數へらるゝ物(文法上普通名詞と稱す)だから、a を添へてその一本なることを示す。故に全文の直譯は「これは一本の葉巻烟草ですか」なれど、和譯するとき a

を一々譯すには及ばぬ。

2. it is は it is a cigar (これは葉巻烟草です) の a cigar を略したので、實際會話などでは斯う略すことが多いのである。それで「さうです」と譯す。
3. this は一物に就いて用ひる言葉(單數)、these は二つ以上の物に就いて用ひる言葉(複數)である。cigars の s は複數を示す。cigars が複數だから、これに單數の this を添へることは出来ない。そこで複數の these を用ひるのである。従て「ある」といふ語(動詞)も is でなく are と變る。
4. they は it の複數である。前の間に cigars と複數が用ひてあるから、答も「それ[等]は」と they を用ひて答へたのである。これも 2 の如く they are not cigars の cigars を略した言ひ方である。cigarettes の s も、その複數を示す。
5. は疑問文ゆゑ言葉の順序が普通の文と反對になる。Where は第一課で學んだ what の如く、疑問辭だから、いつも文の頭に置く。the は「この」「その」「あの」「例の」等の意味を有す。此文は「その紙巻烟草は何處にありますか」の意であるが、the は that の如く指していふ程の意はない。故に譯すときは「その」を略して、腹の中で「その」が潜んでゐるのだと心得ておけばよい。the は「腹藝のその」とでも覚えて置いたらよからう。
6. in the box 腹藝の the が出て來た。此箱は問答してゐる人の目の前にある箱を指すのだから、「箱の中にあります」と譯すだけで意味は通じよう。
7. 「何處其處には何々がある」といふには、there といふ餘計な語を入れる。この there は譯すに及ばぬ。唯疑問文では are there で、普通の文では there are といふ順になる。How many は二語で疑問辭を成してゐるから、where や what と同様に文の頭に置く。How many は幾本、幾冊、幾匹、幾人等、何にでも通じて「いくつ」の意味に用ひられる。
8. 此處で一から十までの數字を覚える。こゝの in は 6 の in とは異り「中」とは譯さぬ。
9. open は「開く」。To open で「開くには」と譯す。push の前に「誰が」とも「何が」ともいふ語(主語と稱す)がないときは「押せ」と命令法に譯す。

push this end は兩切烟草の箱には西洋出来のでも日本製のでも大抵肥してあるから就いて見給へ。

13. an は a と同じ意味の語であるが、a は子音で始まる語の前に附し、an は母音で始まる語の前に附するの差がある。此處で ash の a が母音だから an を用ひるのである。

14. those は that の複数。

15. the table は問答者の前又は側にある卓子だから「この卓子」「その卓子」といふことになる。そこで例の腹藝の「その」を略して譯す。

16. and は接續詞と稱し、strike a match と light the cigar を繋ぐ語。意譯のときは省いて譯さずともよい。strike も light も smoke も主語がないから 9 の push の如く命令法である。

規則一 單數の普通名詞には a 又は an を其の前に附す (1 及 13 を見よ)。物質名詞にはそれを附けない(第一課参照)。

規則二 單數の普通名詞を複数にするには其の語尾に s を加へる (3, 4, 5, 7, 14 を見よ)。語尾が s ならば es を加へる (練習を見よ)。

エクササイズ トゥー
Exercise II (練習第二)

次の單語を用ひて下の和文を英譯すること

スプーン Spoon(匙)	ナイフ Knife(ナイフ)	フォーク Fork(肉刺)	ディッシュ Dish(皿)
ボトル Bottle(徳利)	ナイフズ Knives(ナイフの複数)	ディッシュズ Dishes(皿の複数)	

1. これは匙ですか。
2. はい、さうです。
3. あれ〔等〕は徳利ですか。
4. 肉刺です。
5. ナイフは幾本ありますか。
6. 三本あります。
7. あの徳利の中に何がありますか。
8. あの中にはビールがあります。
9. 卓子の上に皿が二枚あります。
10. この皿のそばにコップが一つあります。

レッスン サリー
Lesson III (第三課)

1. I am a soldier.
(1) (2) (3)
私は であります 陸軍々人

2. I am old.
(1) (3) (2)
私は みます 年老いて

3. I am an old soldier.
(1) (4) (2) (3)
私は であります 老いたる 陸軍々人

4. You are a sailor.
(1) (3) (2)
あなたは であります 船乗

5. You are young.
(1) (3) (2)
あなたは あります 若く

6. You are a young sailor.
(1) (4) (2) (3)
あなたは であります 若い 船乗

7. We are friends.
(1) (3) (2)
私共は であります 朋友

8. Who is that gentleman?
(5) (6) (3) (4)
誰 ですか あの 紳士は

9. at the desk?
(2) (1)
の所の 机

9. He is my father.
(1) (4) (2) (3)
彼(男)は であります 私の 父

10. He is a merchant.
(1) (3) (2)
彼(男)は であります 商人

11. Is that lady?
(5) (1) (2)
ですか あの 婦人は

12. your mother?
(3) (4)
あなたの お母さん

12. Yes, she is.
(1) (2) (5)
さうです 彼(女)は です

マイ マ マー
my mother.
(3) (4)
私の 母

シィー イズ ア ミュージシャン
13. She is a musician.
(1) (3) (2)
彼(女)は、であります 音楽家

ワット イズ ゴット アニマル
14. What is that animal
(5) (6) (3) (4)
何 ですか あの 動物は

オン ザ フロア
on the floor?
(2) (1)
の上の 床(ユカ)

イット イズ ア ドッグ
15. It is a dog.
(2) (1)
です 犬

フーズ ドッグ イズ イット
16. Whose dog is it?
(1) (2) (3)
誰の 犬 ですか

イット イズ アー ドッグ
17. It is our dog.
(3) (1) (2)
です 私共の 犬

ウェアー アー ユア
18. Where are Your
(5) (6) (1)
何處に みますか あなたの

ブラザーズ アンド シスターズ
brothers and sisters?
(2) (3) (4)
兄弟等 と 姉妹等は

ゼー アー イン ザ
19. They are in the
(1) (4) (3)
彼等は みます に

ガーデン
garden.
(2)
庭

ゼー アー アット プレイ
20. They are at play.
(1) (3) (2)
彼等は みます 遊んで

- 【讀方】** 1. Soldier の d は j のやうに響かせ、第一音節の「ソウ」に「アクセント」を置いて強く読む。a は軽く soldier に附けて読む。
3. au は次の old と續くから、實際上「アノウド」となる。但し an は軽く読む。
4. sailor は第一音節に「アクセント」を置き、or は「アー」だか「オー」だか分からぬ曖昧の音を出す。
5. Young を強く読む。此の語は「ヤング」と振假名してあるけれども、地方

によつては此の「ぐ」の出せない人がある。これは「軍人」の「グ」のやうな音ではなく、東京あたりの人のいふ「官軍」の「グ」のやうな音である。この區別は假名ではどうしても表はせない。已むなく本講義録では前者に「グ」を、後者に「ぐ」を用ひて置くが、Young は殆んど「ヤン」に近い鼻へ抜ける音であるから工夫して見給へ。

6. ゆるゆる読むには are と a の間を離すのであるが、実際上もつと速く読むときは全文を續けて読んでよい。その時は are a が續いて「アール」となり、全文は「ユー、アール、ヤング、ソウのチャー」となる。Young soldier は強く読む。
7. Friends を強く読む。friends の i は無音字。
8. Who は實際の場合には「フー」と發音する。is と at the は軽く読む。gentleman を日本流に「ゼントルマン」と發音してはならぬ。そして「チェン」に力を入れて發音すべきである。at the は續けるから「アッざ」といふやうになる。
10. merchant は第一音節に「アクセント」を置き、「マー」は「マ」と「モ」の間の曖昧音を出す(mēr'chant)。
11. mother の「マ」は短く發音する。「ファーざ」と同じ様に「マ」を長く引いて「マーざ」とやつてはいけない。
13. musician は第二音節に「アクセント」を置く(mū-sī'cian)。その cian は「シャン」でなく、「シヤン」(shan) と發音する。
14. animal は第一音節に「アクセント」を置き「ア」を強く發音する。「ネイ」を「ニ」とやつてはいかぬ。語尾の「マル」は「マ」か「モ」か「ム」か分からぬ位がよい。明かに「兄丸」と聽えてはいけない。「アクセント」さへ正しければ寧ろ「アネモ」といふに近い位がよい。oo は大抵「ウー」か「ウッ」だが、floor は例外で、「フロア」といはずに「フロア」と發音する。
15. dog は振假名では「ドッグ」だが、實際は「ド」を少し長くして「ドーグ」といふ位にした方がよい。
16. Whose は「ホース」と讀まずに「フーズ」と読む。
18. Where と are を續けて「ウェアラー」と読む。brothers の o は例外で、ア

(ó) と發音する。「ブ」と「ラ」の間を離さず續けて殆んど同時に發音する。
 19. garden の e は無音字。けれども den' を「ドン」と明かにやつてはいかぬ。
 「ド」だか「デ」だか分からぬ曖昧がよい。

20. at は軽く、play は強く發音し、兩語を續けて讀む。

【解釋】 1. 「軍人」といふ言葉は英語では陸軍と海軍とで異なる。陸軍は soldier
 海軍は sailor である。sailor は商船乗組員にも用ゐるから、4 には「船乗」
 と譯して應用を汎くさせたのである。

3. 1 と 2 とを結合した文が 3 である。此の場合には old a soldier とはいはぬ。
 old の o が母音だから、a でなく an を用ふるのである。(前課規則一)

6. 4 と 5 とを結合した文が 6 であることは、1, 2 の 3 に於ける如くで、
 young a sailor といはぬことも old a soldier といはぬと同様である。

7. friends の s は複數を示す。單數ならば friend。

8. at は「……の所にゐる」の意。「向つてゐる」と譯してもよい。

14. on the floor は「床(ユカ)にゐる」の意。

16. Whose は疑問辭だから文の頭に来る。すると、その關係の「犬」も一緒
 について來て is の前にすわる。

18. brothers, sisters の s は複數を示す。單數形は brother, sister。

以上の如く「ある」といふ動詞は英語では「私」「あなた」「彼」などの選ひに依つて、い
 るいろに變ることを見たとあらう。下に一表にして之を示すから、よくよく暗記して口辨を
 つけられたい。

單 數			複 數		
1. 私	I	am	私共	We	are
2. あなた	You	are	あなた方	You	are
3. { 彼(男)	He	is	} 彼等(それ等)	They	are
{ 彼(女)	She	is			
{ それ	It	is			

Exercise III (練習第三)

次の單語を用ひて下の和文を英譯せよ。

アンクル uncle 伯(叔)父	アUNT aunt 伯(叔)母	ソN son 息子	ドーター daughter 息女	カズン cousin 従兄弟(姉妹)	ボーイ boy 男兒
ガール girl 女兒	ハズバンド husband 夫	ワイフ wife 妻	レラテイヴ relative 親戚	リットル little 小さい	ビッグ big 大きい
ホース horse 馬	キャット cat 猫	バード bird 鳥	ヒズ his 彼(男)の	ヘー her 彼(女)の	

- あの大きな鳥は何ですか。
- あれは誰の馬ですか。
- 床の上に猫がゐます。
- 男兒等と女兒等は庭で遊んでゐます。
- 卓子の所にゐるあの紳士は彼の叔父です。
- あの年とつた婦人は彼の妻です。
- 私の叔父は彼の夫です。
- 彼の息子は私の従兄弟です。
- あの 小さい女の兒は彼の息女です。
- 私共は親戚です。

Lesson IV (第四課)

1. There is a knock at the door.
 (3) (2) (1)
 する たゞく音が 戸を

Go and see who it is.
 (3) (1) (2)
 見て來なさい 誰 だか

2. Is Mr. Yamada in?
 (3) (1) (2)
 ですか 山田さんは 御在宅

3. Yes, Sir. Mr. Yamada is at home.
 (1) (2) (4) (3)
 はい 山田さんは です 在宅

Please ^{プリーズ} ^{カム} ^{イン} ^{アンド} ^{スイット} ^{ダウン}
 (1) (2) (3) (4)
 どうぞ 御はいり下さい そして おかけ下さい

What ^{ワット} ^{ネイム} ^{サー}
 (1) (2)
 何といふ 御名前ですか

4. My ^{マイ} ^{ネイム} ^{イズ} ^{タロウ} ^{スズキ}
 (1) (2) (4) (3)
 私の 名は です 太郎 鈴木

5. Good ^{グッド} ^{モーニング} ^{サー}
 (1) (2) (3)
 御早うございます

6. Good ^{グッド} ^{モーニング} ^{ミスター} ^{スズキ} ^{ハワ} ^{ドゥ} ^{ユー} ^{ドゥ} ^{ドゥ}
 (1) (2) (3) (4) (5)
 御早う御座います 鈴木さん 御機嫌は如何ですか

7. I ^{アイ} ^{アム} ^{ヴェリ} ^{ウェル} ^{コンク} ^{ユー}
 (1) (4) (2) (3) (5)
 私は です 甚 達者 有難うございます

And ^{アンド} ^{ハウ} ^{アー} ^{ユー} ?
 (1) (3) (4) (2)
 して 如何 ですか あなたは

8. Thanks ^{コンクス} ^{アイ} ^{アム} ^{プリティ} ^{ウェル}
 (1) (2) (5) (3) (4)
 有難う 私は です かなり 達者

Please ^{プリーズ} ^{スイット} ^{ダウン}
 (1) (2)
 どうぞ 御かけ下さい

9. Are ^{アー} ^{オール} ^{ユー} ^{ファミリー} ^{クワイ} ^{ウェル} ?
 (6) (3) (1) (2) (4) (5)
 ですか 皆(様) あなたの 御家族は 全く 御丈夫

10. Quite ^{クワイ} ^{ウェル} ^{コンク} ^{ユー}
 (1) (2) (3)
 全く 丈夫です 有難うございます

11. It ^{イット} ^{イズ} ^ア ^{ロング} ^{タイム} ^{サインス} ^{アイ} ^{ソー} ^{ソー}
 (7) (6) (5) (1) (4)
 あります 久しく 以来 私が 御目にかゝつて

you ^{ユー} ^{ラスト}
 (3) (2)
 あなたに 此前に

12. It ^{イット} ^{イズ} ^{ファイン} ^{ウェザー} ^{トゥデイ}
 (4) (2) (3) (1)
 です 好 天気 今日

13. Please ^{プリーズ} ^{リメンバ} ^{ミー} ^{トゥ} ^{ミセス} ^{ヤマダ}
 (1) (4) (3) (2)
 どうぞ よろしく へ 奥様

14. Thank ^{コンク} ^{ユー} ^{アイ} ^{ドゥ} ^{ソウ}
 (1) (3) (2)
 有難う 致しませう 左様

15. Good ^{グッド} ^{バイ} ^{サー}
 (1) (2) (3)
 左様なら

16. Good ^{グッド} ^{バイ}
 (1) (2)
 左様なら

- 【讀方】 1. door は ^{ドアー} floor と同じく oo を「ウー」と發音せずして「オー」と發音する。Knock と door を強く讀み、他は軽く讀む。
Go と see と who を強く讀む。
2. Mr. は ^{ミスター} Mister の略字。「エム、アー(ル)」と讀まずに「ミスタ〜」と讀み、「ミス」に「アクセント」を置く。in は強く調子を上げて讀む。
3. Yes, Sir は續けて讀むから「イエッサ〜」となる「イエ」と「サ」に力を入れて讀む。at は軽く、^{アット} home は強く讀む。
come in は續けて讀むから「カミン」となる。and は他の語より軽く讀む。
5. Good の發音は「グッド」ではない、さりとして又「グード」でもない。「グー」と稍々引き加減にして語尾で急に詰めて「グーッ」の如くし、「ド」は殆んど聞えぬ位でよい。そして「モ」に力を入れて morning を強く讀む。
6. の Good morning も同様に讀む。
二つある do の内で、初めの方の do は軽く讀み、How と終りの do を強く讀む。
7. I am は軽く讀む。實際の會話では口の中へ吞んで仕舞つて單に very well, thank you といふ位のものである。very は「ヴェ」に「アクセント」を置く、その ry は「リ」でも「レ」でもないが稍々「レ」に近く發音した方がよい。「サンク、ユー」を續けるから「サンキュー」となる。「サンキュー」と(恰も三九といふ如く)言つてはいけぬ。寧ろ「タンキュー」と聞えるほど舌を齒の間へ出さねばならぬ。
And how are you? きは how を強く讀む。
8. Thanks で一寸離し、他は續けて I am を軽く pretty well を強く讀む。
pretty は「プリ」に「アクセント」を置く。
9. all, family, quite well の四語に力を入れ、特に all は少し調子を上げて讀む。此の文は yes, no で答へらるゝ問だから、終りの語の well の調子を下げた讀む。
family は「ファミリ」と振假名してあるが、稍、「ファミレ」のやうに發音した方がよい。
11. long の「ろ」は稍々長く發音する。「ろんぐ」の「ぐ」は例の鼻へ抜ける音。last の「ら」は幾分長く發音する方がよい。long time, since, saw, last

- を強く讀む。
12. It is を軽く、他の三語を強く讀む。weather は「ウエ」に「アクセント」を置く。to-day を「トゥー、デー」又は「ツー、デー」と讀んではならぬ。to は短く、day に「アクセント」を置いて讀むべきである。
13. remember は「メン」に「アクセント」を置く。その「リ」は卷舌にして「ル」に近い發音をする。to は軽く短く發音する。Mrs. は ^{ミス} Mistress (主婦) の略字であるが、「ミストレス」と讀まずに ^{ミス} Missis と讀む。「ミスイズ」は寧ろ「ミセス」と聞える位に讀む。
14. I'll は軽く、他は強く讀む。
15. Good bye は讀けて殆んど「グバイ」となる。初學者は兎角「グッド、バイ」などゝゴツゴツしたいひ方をするが、「ド」は前にも述べた如く、殆んど吞んで仕舞つてよい。そして「バイ」は幾分艶を付けて「バアーイ」とやると調子がよい。

【解釋】 諸君は最早簡易な實用會話が出来たやうになつた。こゝは來客訪問の會話である。

1. 「ドアー」は「戸」だが「入口」の意。is は通例「ある」の意だけれども、こゝでは意譯して「する」と譯す。全文で「來客だ」といふ意になる。
Go and see は「往て、そして、見よ」と直譯せずに「見に往け」と譯す方がよい。「誰であるか」は who is では足りない。主語 (subject) といつて、it を入れなければならぬ。但し、その it を「それが」と譯すには及ばぬ。
2. は來客が取次の者に問ふ言葉である。
Mr. は「君」「様」「殿」「さん」、いづれでもよい。M を必らず大文字で書き最後に略字の印 (・) を付する。in は又 ^{アット} at home とも言ひかへてよい。
3. 取次の者が來客に答へる言葉である。
at home は「家に」で、is が「居る」だから、is at home で「在宅です」となる。Mr. Yamada とは「主人」といふが如きで、婢僕が來客に主人のことをいふときは斯様にいふのである。
Come は「來れ」in は「中へ」で「這入れ」といふこと、即ち「御這入り下さいまし」となる。Sit down は婢僕が來客に「どうぞ椅子に御掛け下さい

まし」といふので、全文は「どうぞ御這入りになつて御掛け下さいまし」となる。

【注意】西洋では、主人在宅ならば、婢僕は別段主人の許可を待たずして、來客を客間に案内し、然る後主人へ其の旨を報告するのが習慣である。

What name の直譯は「何といふ名か」で、「御尊名は？」の意だから「どなた様で入つしやいますか」となる。Sir は男子に對して丁寧に物言ふときの呼掛けの語で、こゝは婢僕が來客に敬意を表した所である。

4. 英語では姓名の順序が日本語と轉倒する。故に「太郎鈴木」といふのである。

5. やがて其の家の主人山田が客間へ出て來たと想像し給へ。

5 の全文は鈴木と言葉である。これも丁寧に Sir をつけて述べてゐる。「御早う御座います」は意譯で、Good や morning に「早い」といふ意味はない Good morning は午前中何時でも用ひ得る挨拶語で、「今日は」と譯してもよい。午後や夜分の挨拶語は此の Lesson の終に集めてあるから就いて見られたい。

6. こゝでは Sir の代りに先方の名をいつてゐるが、斯くいふ場合もあるのである。

How do you do? も全文意譯である。斯る文は一々直譯せず一の成句として全體を覺えた方がよい。

7. how are you? は how do you do? と同じ意。唯、略式である。

8. Thank you の代りに一語で Thanks ともいふ。直譯は「感謝」。そして？では thank you を文の終に用ひたが、こゝの様に文の頭に用ひても差支ない。故に兩様の言ひ方を示したのである。

こゝ迄は挨拶の爲め主客ともにまだ着席せずに立てゐたのである。そこで主人の山田が來客の鈴木に椅子を進める所である。

11. It is a long time 英文は是非主語を要するから、こゝにも It が出て來るが、それは譯すに及ばぬ。long time は「長い時」「久しい時」だから「久しく」「久々」「御久し振り」など譯す。saw は see の過去形。see は「面會する」の意。

12. こゝで時候の挨拶となる。一例として「今日はよい御天氣です」を出した

が、その他の場合は Lesson の終に集めてあるから就いて見られたい。

【注意】これから用談なり四方山の雑談なりが始る所だが、それは省く。*** は(中略)の印である。

13. は來客が歸るときの挨拶で、Mrs. は既婚婦人に對する敬稱。奥様即ち「あなたの妻」は直譯すれば Your wife だが、兄弟か親友の間柄でなければ、your wife といつてはいけない。通例先方の人の姓に Mrs. を冠らせていふのが禮である。Mrs. の M は必ず大文字にし、最後に略字の印に(・)を付ける。remember me は一語一語に直譯せず、二語で「宜敷」(傳言の場合の)と覺へた方がよい。

15. 午前中ならば Good bye の代りに Good morning といつてもよい。Good morning は會つたときにも、別れるときにも用ひられる。Good bye は別れる時にもみ用ふる。

下の挨拶語と天氣のいひ方を暗記せよ。

グッド モーニング
Good morning. (起床から正午まで、會つたときでも別れるときでも用ひる)

グッド デイ
Good day. (晝間いつでも、會つたときでも別れるときでも用ひる)

アフターヌーン
Good afternoon. (正午から夕方まで、會つたときでも別れるときでも用ひる)

イーヴニング
Good evening. (夕方から夜分まで、會つたときでも別れるときでも用ひる)

ナイト
Good night. (夜分わかれるときに用ひる)

グッド バイ
Good bye. (晝夜ともわかれるときに用ひる)

イット イズ レイニー クェザー
It is rainy (weather). 雨天です

クラウディ
It is cloudy (..) 曇天です

ウィンディ
It is windy (..) 風だちます

スノウイ
It is snowy (..) 雪ふりです

ストーミ
It is stormy (..) 嵐です

ダスティ
It is dusty (..) 砂だちます

フロスティ
It is frosty (..) お寒うございます

チリ
It is chilly (..) 同上

これ等は皆 weather を略しても差支ない。(..)は「同上」の印。

It is severely cold. きびしいお寒さです。

It is very hot. 大層お暑うございます

It is beautiful weather. 結構なお天気です

It is disagreeable weather. いやなお天気です

The weather is changeable. 天気が変わり易い

Lesson V (第五課)

1. What have I (got) on my head?
(5) (1) (4) (2) (3)
何を 私は に [私の] 頭
かぶってゐますか

2. You have (got) a hat on your head.
(1) (6) (5) (4) (2) (3)
あなたは 冠つてゐます 帽子を に [あなたの] 頭

3. It is a silk hat.
(1) (3) (2)
それは です シルクハット(絹帽)

4. The silk hat is yours.
(1) (2) (4) (3)
その シルクハットは です あなたの[もの]

5. It belongs to you.
(1) (2)
それは あなたのものです

6. What have you (got) on your shoulder?
(5) (1) (4) (2) (3)
何を あなたは に [あなたの] 肩
かぶつてゐますか

7. I have (got) a rifle on my shoulder.
(1) (6) (5) (4) (2) (3)
私は 擔つてゐます 銃を に [私の] 肩

8. It is a big rifle.
(1) (4) (2) (3)
それは です 大きな 銃

9. The big rifle is mine.
(1) (2) (3) (5) (4)
この 大きな 銃は です 私の[もの]

10. It belongs to me.
(1) (2)
これは 私のものです

11. What has he (got) under his arm?
(5) (1) (4) (2) (3)
何を 彼[の男]は [の下]に [彼の] 腕
かゝへてゐますか

12. He has (got) a bag under his left arm.
(1) (7) (6) (5) (2) (3) (4)
彼[の男]は 抱へてゐます カバンを [の下]に [彼の] 左の 腕

13. It is a small bag.
(1) (4) (2) (3)
それは です 小さな カバン

14. The small bag is his.
(1) (2) (3) (5) (4)
その 小さな カバンは です 彼[の男]の[もの]

15. It belongs to him.
 (1) (2)
 それは 彼[の男]のものです

16. What has she (got) in her hand?
 (5) (1) (4) (2) (3)
 何を 彼[の女]は に [彼[の女]の] 手
 (6)
 持つてゐますか

17. She has got a parasol in her right
 (1) (7) (6) (5) (2) (3)
 彼[の女]は 持つてゐます 日傘を に [彼[の女]の] 右の

hand.
 (4)
 手

18. It is a gay parasol.
 (1) (4) (2) (3)
 それは です 派手な 日傘

19. The gay parasol is hers.
 (1) (2) (3) (5) (4)
 あの 派手な 日傘は です 彼[の女]の[もの]

20. It belongs to her.
 (1) (2)
 それは 彼[の女]のものです

21. What animals have you in the cage?
 (4) (5) (6) (1) (3) (2)
 どんな 動物を 飼つてゐますか あなたは の中に 檻

22. We have some rabbits in it.
 (1) (6) (4) (5) (3) (2)
 私共は 飼つてゐます 若干 兎を の中に それ

23. The rabbits are ours.
 (1) (2) (4) (3)
 その 兎は です 私共の[もの]

24. They belong to us.
 (1) (2)
 あれ等は 私共のものです

25. What birds have we in the yard?
 (4) (5) (6) (1) (3) (2)
 どんな 鳥を 持つてゐますか 私共は の中に 庭

26. You have some cocks and hens there.
 (1) (7) (3) (4) (5) (6) (2)
 あなたは 持つてゐます 若干の 雄鶏 と 雌鶏を そこに

27. The cocks and hens are yours.
 (1) (2) (3) (4) (6) (5)
 その 雄鶏 と 雌鶏は です あなたの[もの]

28. They belong to you.
 (1) (2)
 あれ等は あなたののものです

29. What fish have they in the pond?
 (4) (5) (6) (1) (3) (2)
 どんな 魚を 飼つてゐますか 彼等は の中に 池

30. They have a lot of gold fish in it.
 (1) (5) (3) (4) (2)
 彼等は 飼つてゐます 澤山 金魚を それに

31. The gold fish are theirs.
 (1) (2) (4) (3)
 その 金魚は です 彼等の〔もの〕

32. They belong to them.
 (1) (2)
 それ等は 彼等のものです

【讀方】 1. have は「ヘイヴ」と讀まずに「ハヴ」と讀む。

2. on your を續けるから「オンニユア」と讀む。
3. silk は日本語化して「シルク」と讀まずに(日本語の「汁粉」と同じ「アクセント」ではいけない) s と l の音に注意して「スィルク」と讀み、「スィ」に力を入れて「るク」は早く發音する。「ハット」の「ト」は囁く時の「ト」の短い音。
5. belongs は第二音節「ろんぐズ」に「アクセント」を置き、「ろ」に力を入れる。「ぐ」は鼻へ抜ける音 (be-lɔŋgʒ)。
7. rifle は「ラ」に力を入れて發音する。
11. under は第一音節に「アクセント」を置く (ʌn'der)。
12. bag は餘程大きく口を開いて「ベァッグ」に似た音を出す。「ベ」は幾分長目に發音する。さりとて「ビァッグ」となつてはいけない。日本語化した英語の「オペラ、バッグ」(opera bag) の「バッグ」はこれであるが、「ベァッグ」と發音したのでは正しくない。まして「オペラバック」などは、いよいよいけない。
16. hand の a は ă だから、殆んど「ヘンド」と聞こえる位に發音する。her は「ハ〜」と「ホ〜」の中間の曖昧音。
17. parasol の「アクセント」は第一音節に置いても第三音節に置いても差支ない (par'a-sol 又ハ par'a-sol')。
22. some は「ソウム」と讀まずに「サム」と讀む。rabbits は第一音節に「アクセント」を置き、「ラ」に力を入れる (ræb'bits)。
25. ir は「ア〜」と「オ〜」の中間の曖昧音だから、birds は「バ〜ヅ」と「ボ〜ヅ」の中間音。

- 【解釋】 1. have は「所有する」「持つてゐる」「……がある」の意だが、和譯は場合次第で種々に變化せねばならぬ。此處では「頭に」といふ句に伴ふから、「冠つてゐる」と譯す。on my head は「私の頭の上に」だが意譯には「私の」を略してもよい。その意味で〔 〕に入れてあるのである。以下〔 〕に入れた譯は皆之に倣ふ。got は省いてこれを言はぬ人もあるが、英人は大抵かういふ場合に got を入れて言ふから、これを示したのである。然し、省いても差支ないといふ意味で () に入れて置いたのである。
5. の直譯は、「それは あなた に 屬する」である。これを意譯すれば、「それは、あなたのものです」で、It is yours と同じことになる。唯注意すべきは、この同じ意味を現はすに二種の言ひ方のあること、yours は「あなたのもの」の意で、to you の you は「あなたに」といふときの形であること(既に學んだ「あなたは」の意に用ふる外に)を覚えることが肝要である。9 の mine と 10 の me や、14 の his と 15 の him など皆この類であるから、その積りでその用法に注意せねばならぬ。この課の終りに、これ等を一括して表示してあるから、就いて見られたい。
 6. の have (got) は「肩に」と伴ふから「擔つてゐますか」と譯す。
 11. の has は have と同じ語であるが、he, she, it その他單數の名詞には has を用ひて have を用ひない。これも課の終りに一表に示してあるから就いて暗記せられたい。
has (got) は「腕の下に」と伴ふから「抱へてゐますか」と譯す。
 16. の has (got) は「手に」と伴ふから「持つてゐますか」と譯す。又「携へてゐますか」と譯してもよい。
 21. の have は「檻の中に」と伴ふから「飼つてゐますか」と譯す。又全文を「檻の中にどんな動物がゐますか」と譯してもよい。
 25. yard は花園 (garden) でない庭。農家の構内の如き場處。
 30. fish は複數でも單に數の多いだけの意では es を付けない語である。

第一表

單數	複數
1. I have	we have
2. you have	you have
3. $\left. \begin{matrix} he \text{ has} \\ she \text{ has} \\ it \text{ has} \end{matrix} \right\}$	they have

第二表

	單數	複數
	が の に(又は)を	が の に(又は)を
1. 私	I my me	私共 we our us
2. 汝	you your you	汝等 you your you
3. $\left. \begin{matrix} \text{彼(男) he his him} \\ \text{彼女) she her her} \\ \text{それ it its it} \end{matrix} \right\}$		彼等(又は)それ等 they their them

第三表

單數及複數	單數及複數
1. mine	ours
2. yours	yours
3. $\left. \begin{matrix} his \\ hers \\ its \end{matrix} \right\}$	theirs

Exercise IV (練習第四)

下の和文を英譯せよ。

- この男は背 (back) に何を背負つてゐますか。
- あの老人は手に傘 (umbrella) を携へてゐる。
- あの若い婦人は指 (finger) に指環 (ring) をはめてゐます。

- 山田君は腕に何を着けてゐますか。
- 君はその箱の中に何を御所有ですか。
- あの陸軍々人は胸 (breast) に勳章 (decora'tion) を下げてゐる。
- 彼は麥帽子 (straw hat) を冠つてゐる。
- 私は杖 (cane) を携へてゐる。
- お池に金魚を何尾御飼ひですか。
- 山本夫人は庭に若干の雄鶏と雌鶏を飼つてゐます。

Lesson VI (第六課)

- Here is a watch in my hand.
(1) (6) (5) (4) (2) (3)
此處に あります 懐中時計が [の中]に 私の 手
- It is a gold watch.
(1) (4) (2) (3)
それは です 金 時計
- There is a clock on the wall.
(1) (5) (4) (3) (2)
あそこに あります 柱時計が [の上]に 壁
- It hangs on the nail.
(1) (4) (3) (2)
それは 掛つてゐます に 釘
- Where is your watch?
(3) (4) (1) (2)
何處に ありますか あなたの 時計は
- It is on my wrist.
(1) (5) (4) (2) (3)
それは あります に 私の 手首

7. It is a wrist watch.
 (1) (3) (2) (3)
 それは 腕時計

8. This wrist watch is made of silver.
 (1) (2) (5) (4) (3)
 この 腕時計は 出来てゐます で 銀

9. What time is it now?
 (2) (3) (4) (1)
 何 時 ですか 今

10. It is just one o'clock.
 (4) (1) (2) (3)
 です 丁度 一 時

11. This clock keeps good time.
 (1) (2) (3)
 この 柱時計は よく合つてゐます

12. My watch is out of order.
 (1) (2) (4) (3)
 私の 時計は ゐます 狂つて

13. It is half-past one by my watch.
 (5) (4) (3) (1) (2)
 です 一時半 では 私の 時計

14. Your watch is too fast.
 (1) (2) (5) (4) (3)
 あなたの 時計は ます 過ぎ 速

15. Yes, it gains five minutes a day.
 (1) (2) (6) (4) (5) (3)
 さうです それは 進みます 五 分 一日に

16. It is a quarter to one by my wrist watch.
 (5) (4) (3) (1) (2)
 です 一時十五分前 では 私の 腕時計

17. My watch is too slow.
 (1) (2) (5) (4) (3)
 私の 時計は ます 過ぎ 遅

18. It loses three minutes a day.
 (1) (5) (3) (4) (2)
 それは 後れます 三 分 一日に

19. Set your watch by the noon-gun.
 (5) (1) (2) (4) (3)
 お合はせなさい あなたの 時計を に 午砲

20. Send Your watch to a watch-maker's
 (6) (1) (2) (4) (3)
 お遣りなさい あなたの 時計を へ 時計屋

to have it repaired.
 (5)
 修繕に

【讀方】 1. Here is を絞つて「ヒアリス」と讀む。同様に 3 の There is を

「ゼアリス」、5 の Where is を「ウェアリス」と讀む。

4. hangs の a は ä だから、「ヘンゲズ」と聞こえる位に讀む。

6. r の前の w は常に無音になるから、wrist の發音は「リスト」となる。その「ト」は強く(さゝやく)時の「ト」の短い音を出す。

8. of は綴字法では「オフ」と讀んだが、實際の場合には「オヴ」と濁つて讀

- む。silver は第一音節に「アクセント」を置く (sɪl'vɜr)。
10. o'clock は「クろック」の方に「アクセント」を置き、「ワン(ヌ)オクろック」を續けて「ワンノクろック」と讀む。その「ク」は囁く時の「ク」の短い音。
11. good time を續けて讀むと「グーッタイム」となる「グーッ」の「フ」に拘泥してドタといはぬやうに注意せねばならぬ。
12. order は第一音節に「アクセント」を置く (ɔr'dɜr)。
13. half の l は無音。
14. too は強く長く讀む (短く軽く讀む to と比較し、區別せよ)。
15. minutes は不規則な發音で u を i のやうに發音し、e は無音。
16. quarter は決して「コーター」と發音してはならぬ。必らず「クウォータ〜」と發音し、kw の音を出さねばならぬ。
18. loses は不規則な音で、「ろウジズ」と讀まずに「るウジズ」と讀む。
19. 「セツチューア」を續けて早くいふときは「セツチュア」となつてよい。
20. maker's の「アクセント」は第一音節 (māk'er's)。repaired の「アクセント」は第二音節 (re-paired')。
- 【解釋】** 1. 「此處に何々がある」又は「其處に何々がある」といふ形は、1 と 3 とを見て悟れるであらう。これは單數形の動詞 is を用ひてあるが、複數のときはこれを are に變へさへすればよい。
7. wrist は手首で wrist watch は實は手首時計であるが、日本では腕時計といふから、和譯はそれに従つてあるが、「腕」は前課で覺えた arm であるから、間違へてはならぬ。
12. order は「秩序」。out of は「外づれて」「失つて」の意だから、out of order で「狂つてゐる」の意となる。
13. half-past one は half-past one o'clock の o'clock を略した形。half は「半」、past は「過ぎ」で「一時半過ぎ」といふことである。これに倣つて二時半 (half-past two) 三時半 (half-past three) 等は自から應用が出来るであらう。
14. is は「ある」だが、意譯して「ます」とする。
15. a day の a は「一日につき」の意、即ち「毎日」の意で、此處の a は「毎」の字に當る。
16. a quarter は「四分の一」の意。一時間の四分の一だから、十五分である。

- この one も one o'clock の略。to one とは「一時に至る迄に」の意で、「一時の前」だから、a quarter to one で「一時十五分前」となる。一時十五分過といふときには to を past に變へればよい。
20. watch-maker は時計師。これに 's (' はアポストロフィーと稱す)を附すると、「の」の意を表はし、watch-maker's は「時計師の」といふことになる。これは、次に「店」といふ字が略されてゐるので、「時計師の店」(watch-maker's shop) といふべきであるが、斯様な場合には通常 shop といふ字は略して用ひないのが例である。to have it repaired の用法は下に類例を示すから、それによつて悟られたい。
- to have it made,それを作らせる。
メイド
- to have this copied,これを寫させる。
コピー
- to have your book bound,あなたの本を製本させる。
ブック バウンド
- to have my photograph taken,私の寫眞をとらせる。
フォトグラフ タイクン
- to have his hair cut,彼の髪を刈らせる。
ヘア カット

いろいろの時の言ひ表はし方

- It is nearly two o'clock,もう二時近くです。
ネイアリ トゥー オクろック
- It is about three o'clock,三時頃です。
アバウト サリー オクろック
- It is ten minutes past four,四時十分過です。
テン ミネイツ パスト フォー
- It is a quarter past five,五時十五分過です。
ア クウォータ〜 パスト ファイヴ
- It is noon,正午です。
ヌーン
- It is midnight,十二時(夜の)です。
ミッドナイト
- The clock strikes six,柱時計が六時を打ちます。
シ クろック ストライクス シックス
- My watch has stopped,私の懐中時計は止まつた。
マイ ウォッチ ハズ ストップ
- Wind it up,それを巻きなさい。
ワインド イット アップ

Exercise V (練習第五)

1. 私の時計は一日に二分進みます。 2. 此の銀時計はよくあつてゐます。
 3. もう八時十五分前です。 4. あなたの腕時計では何時ですか。
 5. あの人の金時計はおそ過ぎます。 6. あの柱時計は狂つてゐます。

- 7. あの男児は衣囊の中に懐中時計をもつてゐます。
- 8. あなたの時計を私のお合はせなさい。

セヴン
Lesson VII (第七課)

1. ^{ルック} ^{アット} ^ザ ^{カレンダー} ^{オン} ^ザ ^{ウォール}.
(4) (3) (2) (1)
を御覧なさい 曆 の 壁
2. ^{ハウ} ^{メニイ} ^{ダイズ} ^{ハズ} ^ア ^{ウィーク} [?]
(3) (4) (5) (1) (2)
幾 日 ありますか 一 週には
3. ^ア ^{ウィーク} ^{ハズ} ^{セヴン} ^{ダイズ}.
(1) (2) (5) (3) (4)
一 週には あります 七 日
4. ^{ゼー} ^ア ^{サンデイ} ^{マンデイ} ^{チューズデイ},
(1) (10) (2) (3) (4)
それ(等)は です 日曜日 月曜日 火曜日
^{ウェンズデイ} ^{ソーズデイ} ^{フライデイ} ^{アンド} ^{サターデイ}.
(5) (6) (7) (8) (9)
水曜日 木曜日 金曜日 [それから] 土曜日
5. ^{ハウ} ^{メニイ} ^{ダイズ} ^ア ^{ゼア} ^{イン(ズ)ア} ^{マンナ} [?]
(4) (5) (6) (3) (1) (2)
幾 日 ありますか に 一と 月
6. ^{ゼア(ル)} ^ア ^{ソ-ティ} ^{オア} ^{ソ-ティ} ^{ワン} ^{ダイズ}
(8) (4) (5) (6) (7)
あります 三十(日) 又は 三十一 日
7. ^{イン(ズ)ア} ^{マンナ} [?]
(3) (1) (2)
に 一と 月

7. ^{ハウ} ^{メニイ} ^{マンナ} ^ア ^{ゼア} ^{イン(ズ)ア} ^{イヤ} [?]
(4) (5) (6) (3) (1) (2)
幾 月 ありますか に 一ケ 年
8. ^{ゼア(ル)} ^ア ^{トゥエルヴ} ^{マンナ} ^{イン(ズ)ア} ^{イヤ}.
(6) (4) (5) (3) (1) (2)
あります 十二ケ 月 には 一 年
9. ^{ゼー} ^ア ^{ジャンユアリー} ^{フエブルアリ} ^{マーチ},
(1) (15) (2) (3) (4)
それ(等)は です 一月 二月 三月
^{エイプリル} ^{メイ} ^{ジュン} ^{ジュライ} ^{オーガスト},
(5) (6) (7) (8) (9)
April, May, June, July, August,
四月 五月 六月 七月 八月
^{セプテンバ-} ^{オクトバ-} ^{ノヴァンバ-} ^{アンド} ^{ティセンバ-}
(10) (11) (12) (13) (14)
September, October, November and December.
九月 十月 十一月 [夫れから] 十二月
10. ^{イン(ズ)ア} ^{イヤ} ^{ゼア(ル)} ^ア ^{フォー} ^{シーズンズ} ;
(3) (1) (2) (6) (4) (5) (7)
に 一 年 あります 四 季が 即ち
^{スプリング} ^{サマ-} ^{オータム} ^{アンド} ^{ウィンター}.
(8) (9) (10) (11) (12)
Spring, Summer, Autumn, and Winter.
春 夏 秋 [それから] 冬
11. ^{ワット} ^{デイ} ^{オヴ} ^ザ ^{ウィーク} ^{イズ} ^{ジス} [?]
(2) (3) (1)
何曜日 ですか 今日は
12. ^{イット} ^{イズ} ^{チューズデイ}.
(2) (1)
です 火曜日

13. ^{ワット} ^{デイ} ^{オヴ} ^ザ ^{マンス} ^{イズ} ^{ジス} ?
 What day of the month is this?
 (2) (3) (1)
 何日 ですか 今日

14. ^{イット} ^{イズ} ^ザ ^{ファースト} ^{オヴ} ^{ジュン} .
 It is the first of June.
 (4) (3) (2) (1)
 です 一日 の 六月

15. ^{イエスタデイ} ^{ワズ} ^ザ ^{サティファースト} ^{オヴ} ^{メイ} .
 Yesterday was the 31st of May.
 (1) (5) (4) (3) (2)
 昨日は でありました 三十一日 の 五月

16. ^{トゥモロー} ^{イズ} ^ザ ^{セカンド} ^{オヴ} ^{ジュン} .
 To-morrow is the second of June.
 (1) (5) (4) (3) (2)
 明日は です 二日 の 六月

17. ^{サンデイ} ^{イズ} ^ザ ^{ファースト} ^{デイ} ^{オヴ} ^ザ ^{ウィーク} .
 Sunday is the first day of the week.
 (1) (6) (4) (5) (3) (2)
 日曜日は です 最初の 日 の 週

18. ^{サタデイ} ^{イズ} ^ザ ^{ラスト} ^{デイ} ^{オヴ} ^ザ ^{ウィーク} .
 Saturday is the last day of the week.
 (1) (6) (4) (5) (3) (2)
 土曜日は です 最後の 日 の 週

基 本 数	順 序 数
一 one 1	第 一 first 1st
二 two 2	第 二 second 2nd
三 three 3	第 三 third 3rd
四 four 4	第 四 fourth 4th
五 five 5	第 五 fifth 5th
六 six 6	第 六 sixth 6th
七 seven 7	第 七 seventh 7th
八 eight 8	第 八 eighth 8th

九 nine 9
十 ten 10
十一 eleven 11
十二 twelve 12
十三 thirteen 13
十四 fourteen 14
十五 fifteen 15
十六 sixteen 16
十七 seventeen 17
十八 eighteen 18
十九 nineteen 19
二十 twenty 20
二十一 twenty-one 21
二十二 twenty-two 22
二十三 twenty-three 23
二十四 twenty-four 24
二十五 twenty-five 25
二十六 twenty-six 26
二十七 twenty-seven 27
二十八 twenty-eight 28
二十九 twenty-nine 29
三十 thirty 30
四十 forty 40
五十 fifty 50
六十 sixty 60
七十 seventy 70
八十 eighty 80
九十 ninety 90
一百 one hundred 100
一百一 one hundred and one 101
一千 one thousand 1000

第九 ninth 9th
第十 tenth 10th
第十一 eleventh 11th
第十二 twelfth 12th
第十三 thirteenth 13th
第十四 fourteenth 14th
第十五 fifteenth 15th
第十六 sixteenth 16th
第十七 seventeenth 17th
第十八 eighteenth 18th
第十九 nineteenth 19th
第二十 twentieth 20th
第二十一 twenty-first 21st
第二十二 twenty-second 22nd
第二十三 twenty-third 23rd
第二十四 twenty-fourth 24th
第二十五 twenty-fifth 25th
第二十六 twenty-sixth 26th
第二十七 twenty-seventh 27th
第二十八 twenty-eighth 28th
第二十九 twenty-ninth 29th
第三十 thirtieth 30th
第四十 fortieth 40th
第五十 fiftieth 50th
第六十 sixtieth 60th
第七十 seventieth 70th
第八十 eightieth 80th
第九十 ninetieth 90th
第一百 hundredth 100th
第一百一 hundred and first 101st
第一千 thousandth 1000th

【**讀方**】 1. Calendar の accent は第一 syllable(cə'lén-dar)。日本語化して「れ」に accent をつけてはいけない。

4. 曜日の名はいづれも皆第一 syllable に accent を置く。Monday は「モンデ
イ」でなく「マンデイ」と読み、Wednesday は Wenz'dā のやうに發音する。
6. thirty の accent は第一 syllable(thir'ty)。
7. year は「イ」「ヤー」と別々にならぬやう、寧ろ唯「ヤー」と力を入れて
發音する位がよい。
8. 「トウゑるヴ」は「ト」と「ウゑ」を續けて、殆んど同時に急いで「ウゑ」の
方へ力を入れて讀む。
9. 月の名の accent は下の如し、Jān'ū-a-rŷ, Fēb'rŷ-a-rŷ, Ā'prīl, Jū-lŷ,
Au'gŷst, Sēp-tēm'bēr, Ōe-tō'bēr, No-vēm'ber, De-çēm'bēr。
10. seasons の o は無音。summer は第一 syllable に accent を置く (sŷm'-
mēr)。「サンマア」と發音せず、m は一つと思つて、「サマ〜」と讀むべき
である。autumn も winter も accent は第一 syllable にある。autumn の n
は無音。
15. Yesterday は第一 syllable に accent を置く。(Yēs'tēr-day)。兎角「タ〜」に
「アクセント」をつけたがる語であるが「タ〜」を短く發音したら、その弊が
防げるであらう。
16. To-morrow の accent は第二 syllable(to-mōr'rōw)。「トッ」は短く且軽く
發音する。Sec'ond は兎角第二 syllable に accent をつけたがる語であるが、
「セ」に力を入れて、「セッカンド」といふ位にするがよい(「セッカチ」といふ
日本語の accent でゆけばよい)。

基本數 「イレヴン」は「れ」に accent をつけ、「さ〜ティーン」以下みな振假
名の最初の字に力を入れる。「トウエンティ」は「ウゑ」に力を入れる。

順序數 第一より第十まで皆振假名の最初の字に力を入れる。その他
の accent は基本數の例に倣へばよい。

【**解釋**】 1. on は元來「附いてゐる」といふ意味を有する。故に on the wall
は「壁についてゐる」とか「壁に掲げてある」とかいふ意。

2. 直譯は「一週は幾日を有するや」である。故に意譯して「一週は幾日です
か」とか「一週には幾日ありますか」となる。a week の a は「一」の意。

a week は單數だから has の動詞を用ひ、have は用ひられぬ (第五課の表
参照)。

3. は 2. の説明で自から明かであらう。
4. They とは 3 の seven days (七日) を指す。即ち it(それ)の複數である。
英語では「A と B」といふには A and B といひ「A と B と C」といふに
は A, B and C といひ、最終の語の前に and を置くのが例であるから「日
月火水木金 and 土」といふのである。故に and は強ひて譯さずともよい。

規則 曜日の名は大文字を以て書き始める。

5. は 2. の例に倣つて How many days has a month? といつてもよい。従つ
て 2 を 5 の如く How many days are there in a week? といつてもよい。
there の用法は第二課 7 を参照せられたい。
6. or の前に days が略されてゐることは明かであらう。日本語の方には「日」
を入れた方が口調がよいから括弧の中に入れてある。全文は又 A month
has thirty or thirty-one days ともいひ得る。
7. これも How many months has a year? といひ得る。months の s は複數
のしるし。
8. これも 6 の例と同じく A year has twelve months ともいひ得る。
9. こゝの they は 8 の months を指すので、it(それ)の複數、即ち「それ
〔等〕の月といふのは」の意。日本語では月名は番號付けだが、英語では月ご
とにそれぞれ名稱がある。丁度古語の「むつき」「きさらぎ」「やよひ」など
のやうに。4 と同様に「一月、二月、三月……十月、十一月、and 十二月」
といふのが英語の例であるが、and は強ひて譯すには及ばぬ。

規則 月名は大文字を以て書き始める。

10. ; は semi-colon(セミコロン)と稱し、文の區劃を示す印である。こゝでは
「即ち」といふ字に當ると思つて譯せばよい。Winter の前の and も 4 や 9
の and と同じ用法。
11. 「何曜日」は「週の何日」といひ、「何月何日」は 13 の如く「月の何日」
といふ。this(これは)とは「今日は」の意。もし to-day(今日)を用ひたけ
れば What day of the week (又は month) is it, to-day? とすればよい。
14. the first は the first day(第一日)の day を省いたので、通例は斯様に

day をいはいないのである。こゝに記憶すべきは、順序数即ち第一、第二、第三などには必ず the を添へる規則である。

15. 31st は thirty first の語尾の st を 31 に添へたので、矢張「さ〜ティフア〜スト」と読む。普通の数字即ち基本数に st, nd, rd, th 等を添へれば、順序数を示すこととなる。それは此の Lesson の終に集めてあるから就いて見られたい。

こゝに始めて was (ありました) といふ過去の動詞が出て来た。これは am 又は is の過去形で、大切な語であるから、忘れぬやうにせられたい。

17. the first は「第一」だから又「最初」とも譯せる。こゝでは day を省略することは出来ぬ。

基本数 の中で 15 は注意を要する。14, 16, 17 等の例に倣へば fifteen となりさうだが、fifteen となつて、綴も發音も變るから間違へてはならぬ。又 18 は eighteen と綴らずに、eighteen と綴る。即ち e が一つになる點に注意すべきである。21 以下は間に hyphen(-)を入れる。40 は forty でなくて forty, 50 は fifty でなくて fifty, 80 は eighty でなくて eighty であるから注意せねばならぬ。101 からさきは hundred の次に and を入れる。しかし thousand と hundred の間には and を入れない。例へば one thousand two hundred and thirty (1230) のやうに。但し百位の数が零ならば thousand の次に and を入れる。例へば two thousand and ten (2010) のやうに。

順序数 では第四以下 th を語尾に付するが、5th は fifth でなくて fifth, 8th は eighth でなくて eighth, 9th は ninth でなくて ninth, 12th は twelfth でなくて twelfth である。又 20th は twentieth でなくて twentieth と綴り、30th 以下 90th まで皆同様に基本数の語尾の ty を tie に變じてから th を添へるのである。尙ほ th が日本語の「第」に當ると考へて第一を 1th, 第二を 2th, 第三を 3th などとやつたり、21, 22, 23 をそれぞれ 21th 22th, 23th などとやつてはならぬ。31, 32, 33, 41, 42, 43, 等以下これに倣つて注意が肝要である。

Exercise VI (練習第六)

(A)

次の数を英語に直して見よ。

a. 47 38 53 604 1020 1925 2586

b. 第三十一 第七十 第千〇八十 第九十二

(B)

次の日本語を英譯せよ。

- 1. 暦が釘にかゝつてゐます。 2. 今日は何曜日ですか。
3. 今日は木曜日です。 4. 昨日は水曜日でしたか。
5. はい、さうです。 6. 週の三番目の日は火曜日です。
7. 二月は幾日ですか。 8. 二月は二十八日又は二十九日です。
9. 一月は年の最初の月です。 10. 十二月は年の最後の月です。
11. 一年は幾日ですか。 12. 一年は三百六十五日です。

Lesson VIII (第八課)

1. In the daytime we can see well.
(1) 晝間は (2) [我々は] (3) (4) (物が見えます) (5) よく

because it is light.
(5) (7) (6)
そのわけは からです 明るい

2. During the night it is dark.
(1) 夜間は (2) 暗い

3. We must light the gas or turn on
(1) (9) (5) (4) (6) (8)
[我々は] ねばなりません 点火し 瓦斯を 又は ひねら

the electric light, if we want to see.
(7) (3) (2)
電燈を ならば (物が) 見たい

4. ^{デュ-アリン} ^グ ^{ナイ} ^{ウイ} ^{クエン} ^{スィ} ^{サン}
 During the night we cannot see the sun,
 (1) (2) (5) (4) (3)
 夜間に [我々は] 出来ませぬ 見る事は 太陽を

^{バット} ^{ウイ} ^{クエン} ^{スィ} ^{ムーン} ^ア ^{スター}
 but we can see the moon and the stars.
 (6) (7) (12) (11) (8) (9) (10)
 しかし [我々は] 出来ます 見る事が 月 と 星を

5. ^{ゼア} ^ア ^{ソク} ^{マニ} ^{スター} ^ザ ^{ウイ}
 There are so many stars that we
 (4) (1) (2) (3) (9) (5)
 あつて 大層 澤山 星が 程です [我々は]

^{クエン} ^{カウ} ^{セム}
 cannot count them.
 (8) (7) (6)
 られぬ 数へ それ[等]を

6. ^グ ^{サン} ^{ライ} ^{イン} ^グ ^{モー} ^ア
 The sun rises in the morning and
 (1) (3) (2) (4)
 太陽は 昇り 朝 [そして]

^{セツ} ^{イン} ^ヒ ^{イー}
 sets in the evening.
 (6) (5)
 没します 夕方

7. ^グ ^{サン} ^{ライ} ^{イン} ^ヒ ^{イース} ^ア ^{セツ}
 The sun rises in the east and sets
 (1) (4) (3) (2) (5) (8)
 太陽は 昇り に 東 [そして] 没します

^{イン} ^グ ^ウ
 in the west.
 (7) (6)
 に 西

8. ^{ノー} ^{サウ} ^{イース} ^ア ^ウ ^ア
 North, South, East, and West are
 (1) (2) (3) (4) (7)
 北 南 東 西は です

^グ ^{フォー} ^{カー} ^ポ
 the four cardinal points.
 (5) (6)
 四つの 方位主点

9. ^{ウイ} ^ゲ ^ア ^ア ^{イン} ^グ ^{モー}
 We get up early in the morning.
 (1) (4) (3) (2)
 我々は 起きます 早く 朝

10. ^{デュ} ^グ ^{デイ} ^{ウイ} ^ウ
 During the day we work.
 (1) (2) (3)
 晝間 [我々は] 働きます

11. ^ア ^{ナイ} ^{ウイ} ^ゴ ^ト ^ベ
 At night we go to bed.
 (1) (2) (3)
 夜分に [我々は] 入寝します

- 【讀方】 1. daytime は day と time を結合した語で、どちらも強く發音せねばならぬが、day の方を一層強く發音する (day'time''). can の a は ä だから、can は「ケン」で、「キャン」に餘程近い音になる。because の accent は第二 syllable (be-cauz'). 「コーズ」といふとき、口を圓く狭ばめてはならぬ。「カース」といふ音を出す位に口を開いて、「コーズ」とやるがよい。
2. During の accent は第一 syllable (Dür'ing)。r の音さへ正しく出せば、又「デューリンク」と發音してもよい。night の gh は無音字。
3. gas は日本語化して「ガス」(瓦斯) とよんでゐるが、この a も ä だから「ゲェス」であるが、実際上は「ギェス」と發音してもよい。turn on は續けて「タヘンノン」となる。その次の the は母音 e の前にあるから、軽く「ヒ」と發音することは既に學んだ通りである。electric の accent は第二 syllable (e-lēe'trīe)。want to は續けるから「ウオント」の「ト」は消える。
5. count の振假名の「カウ」を普通の日本語の假名を讀むやうに、「コー」と讀んではならぬ。假名二つを必ず別々に「カウ」と讀まねばならぬ。
6. morning, evening は、いづれも accent が第一 syllable にある (môrn'ing,

ēvə'ning). evening の第二の e は無音字。

7. east の a は無音字。

8. South の「サウ」も、5 の count の「カウ」と同様に、「ソー」と読まずに、「サ」と「ウ」を別々に読む。cardinal の accent は第一 syllable (cär'di-nal)。語尾の nal は「ナる」だか「ノる」だか分らぬ曖昧音を出す。points は「ポ」に力を入れる。日本語化して「イ」に力を入れてはならぬ。

9. get up を續けて「ゲタツプ」と読む。early の accent は第一 syllable (ear'ly)。この語は「ア〜リ」と振假名してあるけれども、「ア」と「オ」の間の音を出し、「リ」は稍々「れ」に近く發音する。

10. work も「ウ〜ク」と振假名してあるけれども、「ウ」^クと「ワ」の間の音、寧ろ「ワ」に近く發音するがよい。

11. bed を「ベツト」とやつてはならぬ。英語では必ず「ベツド」^ドと濁らねばならぬ。

【解釋】 1. In the daytime は又「日中」と譯してもよい。see は「見る」can は「能ふ」の意。can see で「見ることが出来る」即ち「見える」と譯す。前にも述べた如く、英語では、動詞に必ず主語 (subject) を要するから、we (我々は) といふ語を can see の前に置くのだけれども、日本語では斯る場合に「日中は物がよく見えます」といひ、却て「見える」といふ語に「物が」を添へる。そのつもりで譯語についてゐる括弧内の語を取捨せられたい。because は「如何となれば……ゆゑに」といふ風に、二度譯す必要のある語である。it is light の it は主語で、和譯する必要はない。
2. During は「間」といふ語。it is dark の it も 1 の it と同様。
3. We は主語で、和譯のときには省いてもよい。又假令最初の we は譯ずとしても、if の次の we は、日本語には全然要しない語であるが、英語では want といふ動詞の主語として必要缺くべからざる語である。turn on とは點火すること、その反對の「消燈する」は turn off ^{オフ} といふ。序に記憶するがよい。electric は「電氣の」といふ形容詞、light は「あかり」、二字で「電燈」となる。同じ light でも must の次のは動詞、electric の次のは名詞である。want は「欲する」の意、「何々したい」の「たい」に當る。if we want to see で「物が見たければ」又は「物を見るには」と譯す。

5. so とかゝれば that で受ける、丁度日本語の「係り結び」に似た用法である。「so……だから that……な程である」といふ形式になる大切な構造であるから、よくよく記憶せられたい。

6. in the morning の直譯は「朝に」だから、全文の直譯は「太陽は朝〔に〕昇り、〔そして〕夕に没します」となるが、括弧の中を省けば、日本語らしい譯語となるであらう。又次の規則を暗記せられたし。

規則 Sun (太陽) Moon (月) 等天體の名には定冠詞 the を付す。

8. West の前の and の用法は、Lesson VII で學んだ通りのわけだから、最早こゝでは譯さぬこととした。

9. の in を譯さぬことは 6 と同様。

10. bed は「臥床」「寢所」。go to bed は「寢床に行く」で、「就寢」「入寢」の意。

Exercise VII (練習第七)

1. 此處には瓦斯又は電燈がありますか。
2. [我々は] マッチで瓦斯に點火します。
3. 私は電燈をつけます。
4. 私は電燈を消します。
5. 夏は太陽が早く昇ります。
6. 冬は夜が長い。
7. 私共は朝五時半に起きます。
8. 彼等は夜分九時に入寢します。
9. 此處で月が大層よく見えます。
10. 冬は六時に〔なると〕全く暗くなります(is)。

Lesson IX (第九課)

1. The sky is low; it is covered

(1) (3) (2) (4) (8) (7)

空が あります 低く それは あります 被はれて

with clouds. 2. It begins to rain.
 (6) (5) (2) (1)
 で 雲 初めました 雨が降り

3. Open your umbrella. 4. It rains
 (3) (1) (2) (3)
 おさしなさい あなたの 傘を 雨が降ります

very fast. 5. The lightning flashes
 (1) (2) (1) (2)
 大層 ひどく 電光が 閃き

and the thunder roars. 6. What
 (3) (4) (5) (1)
 [そして] 雷が 轟きます 何んときあ

disagreeable weather! 7. The weather
 (2) (3) (4)
 いやな 天気(だこと) 天気が

is very bad for this season, but
 (7) (5) (6) (3) (1) (2) (8)
 あります 大層 悪く にしては この 季節 然し

we must put up with it.
 (9) (12) (11) (10)
 [我々は] しなければ 辛抱 [それを] なりません

8. During June we have a great deal
 (2) (1) (5) (4)
 (中) 六月 あります 大層多く

of rain; it rains very often.
 (3) (8) (6) (7)
 雨が 雨が降ります 甚 しばしば

9. In September we sometimes have typhoons;
 (2) (1) (3) (4)
 に 九月 時々 颱風が
 (5)
 あります

it is a stormy month.
 (6) (9) (7) (8)
 それはです 嵐 月

10. In winter we have snow and ice.
 (2) (1) (6) (3) (4) (5)
 には 冬 があります 雪 と 氷

11. The thermometer often falls below
 (1) (2) (6) (5)
 寒暖計が 屢々 下ります 以下に

freezing point.
 (3) (4)
 氷 點

諸君はもう大分 accent の符號に慣れたであらうと思ふから、自今 accent のある語には、その符號を付け、また必要に應じ他の發音符號をも付けて列挙することとする。默音のある語や、符號を付けただけでは分りにくい語には、括弧を付けてその中に發音を示すこととする。以下第九課の New words (新語) の accent を示す。

- 1. eɪ'vɛrɪd
- 2. lɛ'gɪŋ'
- 3. ō'pen(ō p'n)
- 5. laɪt nɪŋ(ɪ t'nɪŋ)
- 6. dɪs'ɑ-grɛɛ'ɑ-blɛ
- 8. ɒf tɛn(ɒf n)
- 9. sɒmɛ'tɪmɪz' tɪ-ph'ɒŋz' (tɪ-foʊnɪz')
- stɔ:m'ɪ
- 11. θɛr-mɒm ɛ-tɛr lɛ-lōw' frɛɪzɪŋ

【讀方】 1. sky, low を強く力を入れて読み、the と is は軽く読む。そして low で聲を下げる。凡て(;)のある所では(.)のある場合と同じ様に聲を下げるのである。それから it is と with を軽く、covered と clouds を強く力を

入れて読む。「クラウド」の「らウ」は第八課の Count (カウント) や South (サウス) と同じ様に「ら」と「ウ」を別々に発音する。これを続けて「ろー」と讀んではならぬ。

2. It と to を軽く、begins と rain を強く読む。
3. Open と umbrella を強く、your を軽く読む。Open your を続けて早口に読むときは「オープンニョア」となる。
4. It は軽く、他は強く読む。
5. 二つの the と and を軽く、他の語は皆強く読む。
6. 三語とも強く読む。(!) は exclamation mark (イクスクラメーション マーク) と稱し、感嘆、歎息などの意をあらはす詞や文の終りに付けるしるしである。こゝは「まあ、いやな天気だなあ」と歎息するのであるから、額に八の字でも寄せて、その調子で讀まねばならぬ。
7. こゝで力を入れて読むべき語は weather, very bad, this season, put 等である。bad の a は ä だから、「ベ」に近い音を出して「ベアッ」と聞こえるほどに発音する。「ド」は極く短く、殆んど聞こえぬほどでよい。but と must も多少強く読む方がよいけれど、上に挙げた語ほど強く読むに及ばぬ。put up は続けて「プタッパ」といふ風に読み、put に力を入れる。
8. June, great deal, rain, rains, very often を強く読む。great の t は囁く「ト」の短い音、great deal を続けて「グレイディーア」と読む。rain の次に「セミコロン」(;)があるが、(;)のある處は「ピリオド」(.) の場合と同じく聲を下げて読むべきである。故に rain は力を入れても、調子を下げて句切らしく讀まねばならぬ。
9. September, sometimes, typhoons, stormy month を強く読む。こゝの(;)の處も typhoons に力を入れても、調子は下げて句切らしく読む。
10. winter, snow, ice を強く読む。
11. thermometer, often, falls, freezing point を強く読む。

【解釋】 1. 單に「曇天だ」といふのは六月號第四課の終りに挙げた It is cloudy であるが、曇天の模様を言ひ現すのに The sky is low (空が低い) ともいふ。これは日本語にもある言ひ現し方で、此の點は日英兩語同一である。it は sky を代表する代名詞。is covered は二語で「被はれてゐる」といふ受

け身動詞の形で、文法上 passive voice (パッシヴ ヴォイス) と稱する。〔働きかけの形は active voice (アクティヴ ヴォイス) と稱する。詳しくは追て説明しよう〕。

2. It は譯すに及ばぬ。begins は現在形である。それゆゑ直譯は「始まる」だけれども、斯る場合に日本語では「降り初めた」といふのが普通であるから過去形に譯したのであるが、begins は實は現在形であることを忘れてはならぬ。その s は主語が第三人稱單數の It であるから語尾に添へたのである。

規則 主語が第三人稱單數のときは、その動詞の現在形には語尾に s 又は es を加へる (es を加へる例は 5 を見よ)

人稱 (person) とは文法上の用語で、これに第一、第二、第三人稱の別がある。第一人稱とは自己を表はす語 (I, we 等)、第二人稱とは聽き手を表はす語 (you)、第三人稱とは噂に持ち出される人又は物を表はす語 (he, it, book 等) をいふ。こゝで人稱の人といふ字に拘泥して、人稱とは人に就いてのみいふことだと思つてはならぬ。人以外の事物を指す場合がなかなか多いのであるから。第五課の終りに掲げた三つの表(七月號)の中の數字 1 2 3 は此れ等の人稱を表はしてゐるのである。その表の中の第三人稱は he, she, it, they 等の代名詞を用ひてあるが、名詞は特別の場合の外大概第三人稱である。そこで本課 5 の lightning や thunder, 11 の thermometer 等が第三人稱の名詞であり、且つその動詞に s 又は es の附いてゐることも合點がゆくであらう。

rain は名詞にも動詞にも用ひらるゝ語である。こゝの rain と 4 及 8 の rains とは「雨降る」の意に用ひたので動詞に屬する。

3. Open には主語がない。即ち五月號第二課で説明した如く、命令法(imperative mood) の動詞で、「開けよ」の意。全文は意譯して「傘をひろげろ」「傘をおさしなさい」となる。序に open の反對 shut (閉ぢる) も覚えて置いてよからう。

4. 「雨降る」「雷鳴する」等の動詞には It を主語として用ふる。例へば It snows (雪が降る)、It thunders (雷が鳴る)、It blows (風が吹く)、It hails (雹が降る)等。

5. flash の主語が單數の lightning だから、2 で述べた規則によつて語尾に es を加へて flashes とするのである。

規則 凡そ語尾に s, sh, ch (チュと響くものに限る), x, z 等があれば es を

加へて單複の區別を示す。

注意 s 又は es を語尾に加ふれば、名詞は複數となり、動詞は單數となる。此の點は名詞と動詞と正反對である。

されば、この文の中でも thunder を主語とする roar は單に s を加ふるのみである。

6. は ^{イクスクラマティヴ センテンス} exclamative sentence (感嘆文) と稱する文體で、斯る文には文尾に(!) を附する。disagreeable は「不快な」「氣に食はぬ」の意。全文は、日本ならば額に八の字を寄せ、舌打ちでもしながら言ふ處で、その意味は譯の通り、又は「なんて、いやな天氣だ」「まあ、いやな天氣だなあ」と歎息する處である。

7. for は用途の廣い大切な ^{プリポジション} preposition (前置詞) で、いろいろに譯し得る。こゝの用法の類例は He is young for his age (彼は年齢の割には若い)、He speaks Japanese very well for a foreigner (彼は外國人にしては大層上手に日本語を使ひます)等。put up with は熟語で、「耐へ忍ぶ」の意。but 以下は「不平を言つたとて仕方がない」の意。

8. a great deal は澤山、大量の意。これは分量又は程度をいふときに用ふる語である。數に關しては a great many を用ふる。例へば a great many trees (多數の樹木) の如し。これも序に覺えて置くがよからう。

こゝの様な we have (我々がもつ) といふ言ひ方は、用途の廣い便利な言ひ現し方で、用ひ慣れると、いろいろの場合に應用し得る。例へば We have an examination to-day (今日は試験がある)、We had a holiday yesterday (昨日は休日でした)、We may have fine weather to-morrow (明日は好天氣になりませう) 等。精しくは追々に述べるとしよう。

a great deal of の次の rain は名詞である (it の次の rains 及 2, 4 と比較せよ)。very often の直譯「甚屢、」は日本語としては變なものだから意譯するときには單に「屢、」と譯したゞけでもよい。

9. typhoon は颱風で、秋季に支那海方面から日本へ襲來するあの大暴風雨のことである。「我々は時として颱風をもつ」とは「颱風襲來することあり」の意。こゝの(;)は前課で學んだ(;)と同じく「即ち」の意に用ひてある。It は

September を表はす。Stormy month と同じ様に rainy month (雨の多い月) snowy month (雪の多い月) なども序に覺えて置くもよからう。

10. we have の用法は前に述べた通りで「冬は雪が降り氷がはる」の意。

11. thermometer の thermo は元來「熱」の意、meter は即ち「メートル」であるから、この語は「熱メートル」の意である。「メートル」法の宣傳せらるゝ際、こんな語に出遭ふも一寸面白いではないか。thermometer falls (寒暖計が下る) は日本語でも同じ言ひ方をするけれど、一體をかしの言ひ方である。寒暖計が下るのでなく、水銀(mercury)が下るのである。されば英語では又 mercury falls といふ言ひ方もある。序に fall の反對の「昇る」は rise である。freezing は「凍る」の意ゆゑ freezing point で氷點と譯すが、氷は前に出た ice である。「アイスクリーム」(ice cream) の「アイス」がそれである。序に沸騰點 (boiling point) も覺えて置いてよからう。freezing point と boiling point の前には the を附してもよい。

こゝで二月號「字母の實用」の項に出した F と C に就いて少しく述べて置かう。F は華氏寒暖計の發明者 ^{ファレンハイト} Fahrenheit 氏の名の頭文字である。ゆゑに例へば 35° F. は華氏寒暖計三十五度を意味し、さへティファイヴ ディグリーズ ^{ファーレンハイト} と讀む。C は攝氏寒暖計の發明者 ^{セルシウス} Celsius 氏の名の頭文字ではあるが、例へば 35° C. (攝氏寒暖計三十五度) は、さへティ ファイヴ ディグリーズ センチグレイド と讀むべきである。センチグレイドは Centigrade と綴る。centi は centimetre (センチメートル) などの centi と同じで「百」の意、これを「サンチ」と讀むのはフランス讀である。grade は「度」の意。氷點から沸騰點まで百度あるから斯くいふのである。

〔附〕 寒暖計に關する言ひ方

The thermometer stands at 90 degrees F. 寒暖計は華氏の九十度を指してゐる

The mercury shows (又は registers) 37.4° 寒暖計は三十七度四分を示してゐる

The thermometer rose as high as 100 degrees. 寒暖計が百度にも昇つた

The mercury fell 4 degrees below zero (又は freezing point). 寒暖計は零點

(又ハ氷點)以下四度に下つた

[附] 風雨霜雪等に関する單語及いろいろのいひ方

スノウ	フロスト	デュー	フォッグ	ヘイル	スリート
snow (雪)	frost (霜)	dew (露)	fog (霧)	hail (雹)	sleet (霰)
ウィンド	ストーム	シャワー	レイニイ	スィーゾン	
wind (風)	storm (嵐)	shower (驟雨)	rainy season (雨季; 入梅)		
レインボク	ホット	コールド	ウォーム	クール	
rainbow (虹)	hot (暑い)	cold (寒い)	warm (暖い)	cool (涼しい)	
インザサン	インザ	シェイド			
in the sun (日向で)	in the shade (日蔭で)				

What do you think of the weather? 天気はどうでせう
 I expect there will be a change in the weather. 天気が變るだらうと思ひます
 The weather is mild. 天気は涼ぎよくあります
 It looks like rain (snow). 雨(雪)模様です
 It rains cats and dogs. 雨はドシャブリです
 Snow is deep on the ground. 雪は地上に積つてみます
 The sun shines brightly. 太陽が赫々と輝きます
 It is snowing (raining). 雪(雨)が降つてみます
 The rainy season has set in. 雨季が始まりました
 The rain will soon be over. 雨はちきにやみます
 It has cleared up. 天気は霽れました
 The fog is thick. 霧が厚です

Exercise VIII (練習第八)

- 下の英文は和譯し、和文は英譯せよ。
- Look at the thermometer on the wall.
 - The garden is covered with snow.
 - How cold the wind blows!
 - It is cold for this season.
 - It snows sometimes in March.
 - What colour (色) is the sky?
 - The lady opens her parasol when the sun shines brightly.
 - In summer the water in the sun is very warm.
 - We see a rainbow in the east in the evening.
 - We have a thick fog to-day.
 - 空は青い。
 - 雪は白い。
 - 一月二月には屢々雪が降る。
 - 夏は暑く冬は寒い。

- 秋には嵐がある。
- まあ何といふ好い天気でせう。
- 風は北から吹いて來ます。
- 寒暖計は日蔭で八十度を示してゐる。
- 虹には色が幾つありますか。
- 七色あります。

Lesson X (第十課)

- A dog was crossing a brook.
(1) (2) (4) (3)
一匹の 犬が 渡つてゐた 小川を
- He had a piece of meat in his mouth.
(1) (7) (5) (6) (4) (2) (3)
彼は くはえてゐた 一の 肉片を に [彼の] 口
- He saw his shadow in the water.
(1) (6) (4) (5) (3) (2)
彼は 見た 彼の 影を 中に 水
- He thought it was another dog holding
(1) (12) (2) (11) (9) (10) (8)
彼は 思つた それが であると 他の 犬 くはえてゐる

another piece of meat in his mouth.
(6) (7) (5) (3) (4)
又一の 肉片を に [彼の] 口

- He tried to catch this piece, too.
(1) (6) (5) (2) (3) (4)
彼は した とらうと 此 肉片 も
- But when he opened his mouth, his own
(1) (6) (2) (5) (3) (4) (7) (8)
しかし ときに 彼が 開いた [彼の] 口を 彼の 自身の

^{ピース} ^{フェル} ^{イントゥー} ^ザ ^{ウォーター} ^{アンド} ^ソ ^ザ
 piece fell into the water, and so the
 (9) (12) (11) (10) (18) (14)
 肉片は 落ちた の中へ 水 そして 左様に

^{グリーディー} ^{フェロウ} ^{ロスト} ^{ヒズ} ^{サパー}
 greedy fellow lost his supper.
 (15) (16) (19) (17) (18)
 慾ばりな やつは 失つた 彼の 夕食を

【讀方】 New words (新しい單語) の accent.—

crōss'ɪŋ grēed'y an-ō'th/ər fēl'lōw hōld'ɪŋ shād'ow
 wɑ'tər sūp'ər

1. dog, crossing, brook を強く、他の語は軽く読む。「ブルック」の「ク」は囁く「ク」の短い音を出す。「ウォズ」は稍々「ワズ」に近く發音する。
2. a と of と his を軽く、in は稍々軽く、他の語を強く読む。had の a は ä だから「ヘッド」に近い音を出して読む。但し「ヘッドー」と引いてはならぬ。
3. his と in を稍々軽く、the を軽く、他の語を強く読む。saw (ソー) は「ソウ」のやうに口を狭くせずに發音する。
4. it was と in を稍々軽く、of と his は軽く、他は強く読む。thought, another, mouth はいづれも th の音を出すやうに呉々も注意せられたい。「そート」の「そー」は「そウ」のやうに口を狭くせずに發音する。another の「ア」は軽く短く、この語全體が殆んど「ナざ〜」と聞こえる位に読む。
5. to は軽く短く、他は強く読む。特に too はしつかり読む。「トライド」の「ド」を長く引かぬやうに注意する。
6. he, his, into, and は稍々軽く、the は軽く、他は強く読む。water の次に (,) があるが、こゝは句切らしく稍々離して読むべきではあるが、調子を下げた仕舞つてはいけない。まだ文が続いてゐるのだから、次々読み續くらしい調子を保持せねばならぬ。and の次の so は and より強く読む。その「ソウ」は口を狭くして發音し、3 の saw (ソー) と區別せねばならぬ。lost の「ろ」は稍々長目に發音する。supper は兎角「サパー」と發音する人が多いが、前に第七課の 10 で summer のときにも言つたやうに、子音一つだと思つて「サバ〜」と發音すべきで、その「バ〜」も餘り長く引いてはいけない。

【解釋】 こゝに掲げたのはイソップ物語 (Aesop's Fables) 中の一章である。イソップ物語の中に出てゐる事柄は、英語の實用會話には勿論、高尚なる英文學の中にも屢々引用さるゝから、英語を學ぶものは必ず讀んで置かねばならぬ書物である。興文社發行の Aesop's Fables などは極めて平易に書いてあるから、諸君の獨習用に適してゐるだらうと思ふ。もしまだ獨習がむづかしければ翻譯書で事實だけを覚えて置いても將來どの位役に立つか知れぬほどである。どうか、その心掛をさるゝやうに希望する。

1. A は單數普通名詞の前に付する冠詞であることは前に述べたが、それ故「一」の意味を有する。was crossing は二語で一の動詞を成してゐるのである。これは過去形であるが、現在形ならば is crossing となるのである。大抵日本語の「何々してゐる」「何々してゐた」は此の形式即ち is……ing (複數は are……ing) was……ing (複數は were……ing) で表すことが出来る。こゝで「渡つてゐた」といふのは徒渉の意にとらずに橋の上を渡つてゐるものと解するがよい。繪入のイソップ物語にはさういふ處が描いてある。cross は動詞にも名詞にも使ふ。その動詞は元來「横ぎる」の意だが、名詞は「十字」といふ意で、基督の十字架を「クロス」といふのは此の字であり、十字路は cross road のことであり、近來大流行を極めた「クロスワード」は cross words と綴るのである。縦横十字に讀んで或る語を形成するやうに出来てゐるから、さういふ名が付いてゐるのである。
2. had は have の過去形。a piece は「一片」、meat は獸肉、a piece of meat で「獸肉の一片」、ゆゑに「肉片」と譯す。meat は獸肉に限る。魚肉は meat とはいはずに fish といふ。fish は魚肉といふ意にも魚といふ生物の意にも用ゐるのである。meat は物質名詞で何處から何處までを一個と數へることの出来ぬものだから「一片の肉」を a meat といふことは出来ぬ。同様にパンの、チョコレートなども一片をいふときは a piece of bread, a piece of chalk といふのである。had in his mouth は「彼の口の中に持つてゐた」だから、「銜へてゐた」と譯す。「彼の」は強ひて譯すに及ばぬ。口といふ字を覺えた序に目(eye)、鼻(nose)、耳(ear)も序に覚えておくもよからう。
3. 犬は水にうつつた自分の影を見たのである。water は物質名詞であるけれども、こゝでは「其の小川の水」の意で、弘く一般にいふ水の意でないから

the がついてゐるのである。

4. it は shadow(影)を指す。「犬は自分の影を見て、それをば別の犬が又肉片を銜へてゐるのだと思つた」の意。holding は「現に持つてゐる」「つかんでゐる」の意。holding in his mouth と續けて「銜へてゐる」と意譯し、「彼の口」を省いてもよい。another「他の」「別の」「また一つの」と譯す。was は過去形ゆゑ直譯は「……であつた」とすべきであるが、斯る文に於て日本語では「……他の犬であつたと思つた」と云はずに「……他の犬であると思つた」といふやうに最後の動詞だけを過去形にするのが普通であるから、譯はさうしておいたのである。故に斯る日本語を英譯する場合にも此の點に注意を拂はねばならぬ。

5. this piece とは this piece of meat の意で、of meat を省いたのである。6 の his own piece も同様である。犬は貪慾にもこの水中の肉片をも取らうと試みたのである。too は「も亦」の意。前に第六課で學んだ too「は餘りに」「過ぎる」の意であつたが、今度のは「亦」の意であるから間違へてはならぬ。tried は過去形で、その現在形は try である。斯様に現在形の語尾に ed を加へて過去形となる動詞を規則動詞といひ、ed を加へずに別の形で過去を示す動詞を不規則動詞といふ。これまでに學んだ see(過去形は saw)、have(同じく had)、be(同じく was; were)、think(同じく thought)などは皆不規則動詞である。不規則動詞は一々その變化を暗記せねばならぬ。

6. opened は語尾が ed であるから前述の如く規則動詞、fell, lost は不規則動詞である。fell の現在形は fall, lost の現在形は lose である。「彼の自身の肉片」とは犬が銜へてゐた肉片のこと。and so は「斯くて」とか「斯様にして」の意。通常 supper 夕食、dinner 晝食、breakfast 朝食と譯すけれども dinner は一日中の主要なる食事で、都會地特に交際社會などでは通常午後六時以後同八時頃迄の食事であるから寧ろ夕食である。されば社交界の晩餐は dinner で、午餐は lunch である。序にこれも覚えておきたい。さてこの全文は犬は折角夕食の料となるべき肉片をくはへてゐたのに慾ばつた爲めにそれを失つたといふので、貪慾を戒める教訓となる有名なる物語である。

Exercise IX (練習第九)

下の英文は和譯し、和文は英文せよ。

1. I have two eyes and two ears. 2. He has a piece of bread in his mouth.
3. The horse fell into a brook. 4. The lady lost her ring.
5. Another lady lost her parasol, too.
6. The boy tried to catch the fish in the water.
7. We take breakfast at seven o'clock.
8. The soldiers were crossing the brook in the dark.
9. That girl saw her shadow in the water.
10. The hen has got a piece of bread in her mouth.
11. 犬は小川の中に自分の影を見ました。
12. あの紳士は腕時計を失ひました。 13. 壁に耳あり。
14. あの猫(cat)は池の中の金魚をとらうとしました。
15. 慾深な動物は水の中に落ちました。
16. 私は此の箱を開きたい。 17. 誰の猫が鳥を捕らうとしましたか。
18. 男兒等は小川を渡つてゐます。 19. 私共は朝早く朝食をたべます。
20. あの人はチョークを一本手に持つてゐます。

Lesson XI. (第十一課)

No. 53 Tanimachi, Azabu, Tokyo.

November 4th, 1926.

Dear Captain Takagi,

I am delighted to learn by to-day's paper
 (1) (14) (13) (12) (10) (11)
 私は 大に喜んでゐます 知つて で 今日の 新聞紙

that you have lately been promoted to the rank
 (9) (2) (7) (6) (5)
 ことを あなたが 近頃 (8) 階級
 昇進した

of captain. Please accept my sincere
 (4) (3) (1) (5) (2) (3)
 の 大尉 どうぞ 受けて下さい 私の 誠心ある

congratulations.
 (4)
 祝ひを

Yours sincerely,
 敬具

Shiro Nakayama.
 四郎 中山

【讀方】 New Words:—

dear(dēr) de-light'(dē-lit') leārn pā'pēr lātē/-lī been(bīn
 or bēn) prō-mōtē' rānk eāp-tain(kāp'tin) plēasā ae-cept'
 sīn-çerē' eōn-grāt'ū-lā-tion(shun)

右方上部の No. は二月號「字母の實用」のところで述べた如く「ナンバ〜」と讀む。その次の羅馬字は「谷町、麻布、東京」次行の November 4th は 4th の前に the を入れて November the Fourth と讀む。1926 は普通の讀方では、八月號第七課で説明したやうに、「ワンさウザンド ナインハンドレッド アンド トウェンティ スイックス」と讀むか、又は「ナインティーンハンドレッド アンド トウェンティ スイックス」と讀むのであるが、こゝは西暦何年といふことを示す数字であるから、この場合には「ナインティーントウェンティ スイックス」と讀むのが通例である。類例は 1867(西暦千八百六十七年)エィティーン スイックスティ セヴン 1492(西暦千四百九十二年)フォーティーン ナインティ トゥー 1704(西暦千七百〇四年)セヴンティーン フォア〜等。

強く讀むべき語は delighted, learn, to-day's, paper, lately, promoted, rank, captain, please, accept, sincere, congratulations, sincerely.

他の語は軽く讀む。

【解釋】これは Letter(手紙)の一例で、昇級を賀する文である。英語の書翰文にはいろいろの方式があるが、普通社交上の日用文はこゝに掲げた様式である。即ち先づ書簡箋の右方上部に發信人の住所と發信年月日とを記す。發信人の住所は番地、町(村)、區、市(郡)、府(縣)の順序に記す。即ち日本の習慣とは全然逆の順序に記すのである。若し一行に書き終へぬ場合には二行三行四行に亘つてもよい。唯第二行以下は逐次に少しく右へ寄せて書くのである。年月日は年を最後に記す。月日はいづれを先に記してもよい。次に紙の左方で年月日の次行と思はるゝ邊から受信人を呼び掛くる語を記す。これは親疎によつていろいろの言ひ方がある。

例へば Dear Mr. Yamada とか、My dear friend とか、My dear father とか、又親密な友人ならば My dear Yano の如く敬稱を附せず呼捨にする例もある。而してこの呼掛けの語の次には必ず(,)を附する。それから本文となるので、これはその次の行から始める。その書き始の語は第二行以下の頭よりは少しく右へ寄せて始めるのである。本文には發信人の言はんと欲することを書く。英語には書簡文なりとて候文のやうな特種な文體はない。普通會話をするつもりで書けばよいのである。本文終らば例に示す如く Yours



以上様式の説明により、この手紙は東京市麻布區谷町五十三番地住の中山四郎といふ人から千九百二十六年十一月四日に陸軍大尉高木といふ將校へ宛てた賀状であることがわかるであらう。日本語では

ストックンズ アット フット オフ ゼア ベッド
 stockings at the foot of their bed.
 (11) (9) (8) (7) (5) (6)
 靴下を に すそ の 彼等の 寝臺

5. イット イズ セッド ゴット サンタ クローズ カムズ ダウン
 It is said that Santa Claus comes down the
 (11) (10) (1) (9)
 いふ と サンタ・クロースが 下りて来る

チムネイ トゥ フィル ザ スtockings ウィथ トイズ
 chimney to fill the stockings with toys
 (8) (7) (6) (5) (2)
 煙突を 満たすために 靴下に を 玩具

アンド スウィーツ
 and sweets.
 (3) (4)
 や 菓子

6. ザ ハンブルスト イズ デコレイテッド ウィथ ホリー
 The humblest home is decorated with holly
 (1) (2) (7) (6) (3)
 最も卑しい 家(でも) 裝飾せられ で 柵

アンド アイヴィー アンド プーアリスト ハウスワイフ プリペアズ
 and ivy, and the poorest housewife prepares
 (4) (5) (8) (9) (10) (15)
 と 蔦 そして 最も貧しい 家婦(でも) 用意する

ハー ゴーズ アンド プラム プディング
 her geese and plum-pudding.
 (11) (12) (13) (14)
 [彼女の] 鶩鳥 や プラムプディングを

7. オン クリスマス デイ ザ コージュアル サリュテイション イズ
 On Christmas Day the usual salutation is:
 (2) (1) (3) (4) (9)
 に於て クリスマス 通常の 挨拶は である

ア メリ クリスマス トゥ ユー アンド
 "A merry Christmas to you," and the
 (7) (8) (6) (5) (10)
 愉快的な クリスマス(を祈る) に あなた そして

リプライ セイム トゥ ユー
 reply : "The same to you."
 (11) (15) (14) (13) (12)
 返事は(である) 同じく にも あなた

【讀方】 New words の accent.

Christ'más(krís mas) Jē'gūs chil'drēn Sān'tā Clāus(klōz) chīm'ney
 (chīm'nī) hūm'blēst dēe'o-rāt'ēd hōl'ly i'vvy pōor'est house'wife'
 pre-pāre's plūm-pud'ding ū'gu-al (ū'zhū-ā) sāl'u-tā'tiōn (sāl'ū-tā-shūn)
 mēr'ly re-ply'

1. The と of と is を軽く、他の語は皆強く読む。
2. It is を稍軽く、the, of を軽く、他の語は皆強く読む。「キリスト」は英語では「クライスト」と読む。これを「クリスト」と讀んではいけない。
3. the を軽く読むだけで他の語は皆強く読む。
4. The と up と at the と of を軽く、他は皆強く読む。 before の accent は兎角間違ひ易いから注意を要する。必ず第二 syllable に accent を置いて、ビよりもフォアの方を強く読み、且つフォアと長く引くべきである。hang の a は ä だから「ヘンぐ」に近い音を出す hang up は續けて「ハンがツブ」となる。
5. It is, that, the, to, and, with を軽く、他の語は悉く強く読む。 said は「セイド」と読みさうに見えるであらうが、sed の如く「セッド」と短く讀まねばならぬ。 Santa Claus は近來大分日本語化して「サンダクロース」だの、「サンタクロース」だのと、兎角濁音清音の區別を等閑にする風があるから、間違へぬやうに正しく發音せねばならぬ。 toys の o は字書には短い音に記してあるが、實際には boyと同じく稍と長く發音する方がよい。
6. The, is, with, and, the, her を軽く、他は皆強く読む。 humblest は「ハンブルレスト」の如く「リ」を稍々「れ」に近く、decorated は「デコレイテッド」の如く「ティ」を稍々「テ」に近く、poorest は「プアレスト」の如く、「リ」を稍々「レ」に近く發音する。
7. 第一の : の前では on と the を軽く、他は強く読み : の後では A と to と and the を軽く、他は強く読む。第二の : の後では The と to を軽く、

他は強く讀む。 merry は兎角「メーリー」と長く引きたがる語であるが、短く「メリ」と發音すべきである。 reply は兎角 accent を前に置きたがる語であるが、re(リ)の方は軽く、ply(プライ)の方を強く、即ち第二 syllable に accent を置いて發音せねばならぬ。

- 【解釋】 1. is called は call (稱す、呼ぶ) の受働態である。call は規則動詞だから語尾に ed を添へて過去分詞を作るのである。 The 25th of December はまた December 25th と書いてもよい。これを讀むには 25th の前に the を入れて「ディセンバ〜 さ トウェンティフィフス」と讀む。 Christmas は 2 にある通り基督降誕日で、基督教國に於ては皆祭日としてゐる。
2. birthday は birth と day との二語を結合した語で、birth は出生、誕生の意、動詞にしたら bear といふ語を用ふる。これは不規則動詞で bear, bore, born と變化する。この動詞を用ひて「クリストは十二月二十五日に生れた」といはんとせば Jesus Christ was born on the 25th of December といふのである。was born は bear の受働態過去形である。この例に倣つて試みに自分の出生年月日をいつて見給へ。イエスは英語では Jesus(ヂーザス)である。
3. All the children の all は形容詞であるから、直譯は「總ての子供等は」であるが、それでは餘り直譯臭味を脱せぬゆゑ、「みんな子供等は」とか又は「子供等は皆」と譯す方がよい。because は「その譯は……だから」又は「如何となれば……ゆゑに」といふ風に二度繰返して譯す語である。they は children を指す。receive は「受ける」「受取る」といふ意。西洋では日本のやうに年玉や歳暮の贈答でなく、クリスマスに贈答を行ふ習慣である。それも親戚同士が主として子供に贈物をするのである。故にこの文にあるやうに子供は大喜びでクリスマスを待ちこがれるのである。
4. クリスマス祭はその前夜から騒ぎ出すので、子供等は長い靴下を寝臺のすその方へぶらさげて置く、極く幼稚なものゝためには、母親などが靴下を下げたおいてやる。これは次の文にも見える通り、サンタクロースが夜の中に来て、良い子供にはいろいろの贈物をこの靴下の中へ入れてゆくといふ話があるからである。stockings は長い靴下の意。短いのは socks といふ。いづれも兩足あるから常に複数形を用ふる。foot は足といふ字である。bed の

foot は頭の方でない部分、即ち足の方である。

5. It is said の It は that 以下を豫め代表した待ち設けの主語とでも呼ぶべきもので、that は今までに學んだ「その」「あの」「あれ」「それ」などの意に用ひたのでなく、接續詞と稱するもので、It と that で「……といふことが」と譯し得る。こゝで is said は不規則動詞 say (言ふ) の受働態であるから It is said that は「……といふことが言はれる」が直譯「……なりといふ」が意譯である。即ち「サンタクロースは煙突から下りて来て靴下の中へ玩具や菓子を入れてくれるのださうだ」の意。Santa Claus とは St. (Saint の略字) Nicholas のことで、子供の守護者と稱せられてゐる。赤衣赤帽白髮白髯の太つた元氣のよい老人姿をして、玩具菓子其他子供に與へる贈物のはいつた大きな袋を肩にかけて雪の中を通つて(西洋ではクリスマス頃には大抵雪が降り、クリスマスといへば直ちに雪を聯想するほどである)煙突から各戸へ這入り込んで来て、ベッドに下がつてゐる靴下の中へ、いろいろの贈物を入れて歸るといふことである。down は「下へ」といふ意で、comes down the chimney は「煙突を下へと來る」即ち「煙突をおりて來る」の意。to fill の用ひ方は前にあつた to catch と同様で、「満たさうと」「満たすつもりで」又は「満たすために」の意。with は元來「以て」又は「で」の意。to fill ……with toys and sweets と續けて「玩具と菓子で靴下を満たす」と直譯するのであるが、意譯としては「玩具や菓子を靴下に満たす(又は『一杯にしてやる』)ために」とした方がよい。菓子の英語は cake だとばかり思つてゐる者が多いやうであるが、cake は粉から造つたもの、例へばビスケットや餡パン、堅パン、デゼールの類のことをいふ。sweet は元來「甘い」といふ字で、名詞になると菓子の意である。
6. humblest は humble といふ形容詞の語尾に st を附したもので、形容詞の最上級(追つて詳細に説明する)と稱する形である。最上級の形容詞にはその前へ必ず the を附する。the humblest home の普通の譯は「最も賤しい家」であるが、最上級の形容詞は往々にして「でも」「でさへも」を付け加へて譯す必要の生ずる場合がある。こゝもその場合であつて、「でも」といふ語は別に言ひ現しては無いが、それを附加して譯すべきである。the poorest house wife の場合も同様に「でも」「でさへも」を附加して譯すのである。is

decorated は decorate の受動態。prepare は料理を調へる意である。plum-pudding は英國のクリスマスには是非共なくてはならぬ御馳走で、玉子とパン粉を捏てその中へ乾葡萄を入れて作り、かなり大きな塊を皿に盛り、その上へ holly (ひいらぎ) を載せて、卓上へ運ぶのである。her は housewife を代表する女性の代名詞。これは強ひて譯さずもよい。それで括弧に入れてあるのである。

7. クリスマス當日即ち十二月二十五日を Christmas Day と稱し、その前日即ち二十四日を Christmas Eve と稱す。4 の The night before Christmas とあつた處を On Christmas Eve と書いてもよいのである。Christmas Day での固有名詞 (proper noun) であるから、Day も大文字で書き始めるのである。Christmas Eve の E も同様。序に新年元日のことを New Year's Day 大晦日のことを New Year's Eve と稱することも覚えて置かれたい。New Year は新年のことである。is の次に (:) があるのは次に (") で始めた語句があるので、その區劃に附けたしるしである。: は「次の如し」又は「下の如し」の意と解してもよい。(" ") は quotation marks と稱し、他人の語句を引用したとき、その語句を包む記號である。こゝでは人の挨拶語を示めすのだから、それが用ひてあるのである。(" ") の中の最初の語は大文字にて始むるのが規則である。故にこゝの A も次の The も大文字なるに注意せられたい。A merry Christmas to you は精しくいへば I wish you a merry Christmas ! で「私はあなたのために楽しきクリスマスを祈る」「あなたが楽しき幸ひなるクリスマスを楽しめられんことを祈る」の意。I wish you a good morning と同様な言ひ現はし方である。ゆゑに新年の挨拶には I wish you a Happy New Year ! といへばよいのも直ちに了解出来るであらう。唯注意すべきは、I wish で始めたときは、その次へ you を用ひて、終りに to you といはない。又 I wish を略したときは、終りに to you を言はねばならぬ。and the reply の次には is が略されてゐるのであるから、譯すときには「ある」といふ語を入れねばならぬ。それで (15) が入れてあるのである (:) の下に附けてあるけれども (:) が「である」といふ意味をもつてゐるのではない。「あなたにも同様」は I wish you the same. ともし得る。the same とは a merry Christmas の代りに用ひた語で、「あなたにも楽しきクリ

スマスを祈ります」の意。同様に他人から I wish you a Happy New Year ! 又は A Happy New Year to you ! と言ひかけられたときにも The same to you 又は I wish you the same ! と答へるのである。序に述べておくが、Christmasには友人知己の間に Christmas card (クリスマスカード) を交換する風習がある。これは丁度日本で年賀状を交換するのとよく似てゐる。このカードの書き方は單に A merry Christmas 又は I wish you a merry Christmas でもよいが、又そのあとへ a Happy New Year をも書き加へる。即ち

A merry Christmas and a Happy New Year to you !

又は I wish you a merry Christmas and a Happy New Year !

と認めるのである。こゝで a Happy New Year to you は「あなたが幸福なる新年を迎へられんことを祈る」の意であるから、歳の暮から a Happy New Year といひ得るので、日本語の「新年御目出度う」と精密に同じではない。無論新年になつてからも A Happy New Year to you といひ得るのではあるが、日本語の「新年御目出度う」は新年に入つてからでなくては使へぬ言葉だが、A Happy New Year は歳の暮から用ひ得るところが違ふのである。この邊をよく間違へぬやうに。I wish you a Happy New Year 即「新年御目出度」と速断してはならぬ。尙ほまた、Happy と New と Year とはいづれも大文字を用ひて書き初めることを忘れてはならぬ。

Exercise XI (練習第十一)

下の英文は和譯し、和文は英譯せよ。

- The 11th of February is called Kigensetsu.
- I was born on the 22nd of August, 1872.
- On New Year's Day the usual salutation is : " I wish you a Happy New Year ! "
- All the boys like to play in the snow.
- Children like to have toys and sweets.
- What have you got in your stockings?
- 子供等はクリスマスの朝贈物を澤山貰ひます。
- 彼等は贈物を貰つて大喜びします。
- 今日はお父さんの誕生日です。
- 新年御目出たう御座います。
- プラムプディングの上に終がつてゐる。
- 最も貧しい子供でもクリスマスには贈物を貰ひます。
- 母はクリスマスの晩餐の用意をします。
- クリスマスには雪が降ります。
- これはあなたの靴下ですか。それは私の方ではありません、田中さんのです。

Lesson XIII (第十三課)

Proverbs 諺

1. When the cat is away, the mice will play.
 (3) (1) (2) (4) (5)
 ときに 猫が 居ない 鼠が 遊ぶ
2. Where there is a will there is a way.
 (3) (2) (1) (5) (4)
 ところに ある 意志が ある 道が
3. The child is father to man.
 (1) (5) (4) (3) (2)
 子供は ある 父で の 大人
4. Walls have ears.
 (1) (3) (2)
 壁に あり 耳
5. A little learning is a dangerous thing.
 (1) (2) (5) (3) (4)
 わづかの 學問は ある 危険な 物で
6. Blood is thicker than water.
 (1) (5) (4) (3) (2)
 血は ある 濃く よりも 水

7. A bird in the hand is worth two.
 (3) (4) (2) (1) (8) (7)
 一羽の鳥は の中の 手 相當する 二羽に
- in the bush.
 (6) (5)
 の中の 藪
8. Charity begins at home.
 (1) (4) (3) (2)
 慈善は 始まる から 家
9. A stitch in time saves nine.
 (2) (3) (1) (5) (4)
 一と 針は よい時の 省く 九針を
10. Too many cooks spoil the broth.
 (1) (2) (3) (5) (4)
 あまり 多くの 料理人は だいなしにする 汁を
11. When you are in Rome, do as Rome does.
 (5) (1) (4) (3) (2) (9) (8) (6)
 ときは 汝が ある に 羅馬 なせ 如く 羅馬が ます
12. Casting pearls before swine.
 (4) (3) (2) (1)
 投げる 眞珠を の前に 豚が
13. Spare the rod and spoil the child.
 (2) (1) (3) (5) (4)
 節約せよ 鞭を そして あまやかせ 子供を

14. Penny wise and pound foolish.
(1) (2) (3) (4)
 一ペニーの 賢 一ポンドの 愚
15. Nothing venture, nothing have.
(1) (3) (2) (4) (6) (5)
 何も せず 冒険 何も ず 得
16. Out of the frying pan into the fire.
(3) (1) (2) (5) (4)
 から フライ 鍋 の中へ 火
17. Pride goes before a fall.
(1) (4) (3) (2)
 傲慢は 行く の前に 没落
18. Don't count your chickens before they are hatched.
(6) (1) (2) (5) (3)
 算へるな 汝の 雛を 前に それが
- are hatched.
(4)
 孵化する

【讀方】

New words: —

á-wáy', dān'gēr-gus, blōd, thiek-ēr, wōrth, bush, chār'ī-tŷ, stīch, sāvēg, eokks, spoil, brōth, Rōmē, doez (dūz), spārē, rōd, pēn'nŷ, wīgē, pōnd, fōōl'ish, vēn'turē, frŷ'ing, pān, firē, prīdē, count, chīek'ēng, hatched (hācht).

- 1 では is と the と will は軽く、他は強く読む。
- 2 では is と a とを軽く、他は強く読む。there is を續けて「ゼアリズ」と読む。
- 3 では The と is と to を軽く、他は強く読む。
- 4 では三語とも強く読む。尤も have は稍々軽く読んでよい。

- 5 では二つの a と is を軽く、他を強く読む。little は兎角「リツトる」と読む人が多いけれど、これは寧ろ「りる」に近く発音し、「ト」は極く軽く発音するがよい。
 - 6 では is を軽く、than は稍々軽く、他は皆強く読む。Blood は o が二つ並んでゐるけれども、「ブロード」と発音せずして、「ブラッド」と発音する。不規則な発音であるから注意を要する。
 - 7 では A, in, the, is を軽く、他を強く読む。worth は「ワーす」に近く発音する。
 - 8 では at を軽く、他は皆強く読む。
 - 9 では A と in を軽く、他を強く読む。stitch の tch は ch と同じくチュと発音する。
 - 10 the を軽く、他は悉く強く読む。broth は「ブローす」と発音するが、又「プロす」と短く発音する人もある。
 - 11 では in を軽く、他を強く、特に do はしつかり力を入れて読む。do は spelling 練習では「ドウ」と読んだが、実際の場合には「ドゥー」と発音する但しそれを「ゾー」又は「ズー」と発音してはならぬ。does は「ドゥーズ」でも、「ドース」でもなく、「ダズ」と発音する。不規則な発音であるから特に注意せられたい。
 - 12 では皆強く読む。
 - 13 では the と and を軽く、他は強く読む。
 - 14 では and を軽く、他は皆強く読む。
 - 15 では各語皆強く読む。
 - 16 では the を軽く、他は強く読む。
 - 17 では a を軽く、他は強く読む。
 - 18 では your と they are を軽く、他は皆強く読む。hatched の語尾の d は t の音を出して「ハッチト」と読む。決して「ハッチド」と濁音に発音してはならぬ。
- 【解釋】 1. is away とは「不在」の意。mice は廿日鼠で、普通の鼠 (rat) より小さいもの。mice は複數名詞で、その單數形は mouse である。名詞は通常その單數形の語尾に s 又は es を加へて複數となす規則であるが、この

mouse, mice は不規則であるから、特に注意を要する。will は文法上では未來をあらはす助動詞であるけれども、此處の意味は未來でなく現在の習慣を表はすのである。全文の譯は「猫が居なけりや鼠が遊ぶ」で、邦語の「鬼の居ないうち洗濯しませう」に當る。

2. こゝの will は前文の will とは異り、名詞として用ひてある。there is の there は譯すに及ばぬことは既に述べた如くである。又 where は、此處では「何處」でなく、「ところ」の意。全文の譯は「意志のあるところ道あり」で「精神一到何事か成らざらん」の意。
3. father to man は又 father of man ともいふ。いづれにしても、譯は「小兒は大人の父なり」で、一寸聞くと矛盾してゐるやうだが、邦語の「三つ兒の魂百までも」に相當する諺であるから、よく味つて見たら了解出來よう。
4. は説明するまでもないであらう。
5. learning は learn (學ぶ) といふ動詞に ing を加へて名詞に仕立てたもので、「學ぶこと」即ち「知識」の意。「わづかの知識は危険なものである」とは、「生兵法はなまきづのもと」の意。
6. 「血は水よりも濃い」とは、親戚は他人より親しいとか、情がこまやかだとかいふ意。こゝの blood も water も物質名詞だから冠詞が付いてゐないのに注意せられたい。thicker は thick といふ形容詞の語尾に er を添へたので、斯く er の付いた形容詞を文法上、比較級 (Comparative degree) の形容詞といふ。昔は斯る形容詞の譯は「より濃い」などゝ譯したものであるが、今はそんな譯はしない。然るに却て近來新聞雑誌の日本語に「より以上に」などといふ文句を見るが、これは舊式訓讀法の一部復活とも見るべきである。それと對照したら参考にならう。
7. worth は「値ひする」の意。即ち「相當する」の意。この諺の謂ふ所は、何事も實際手に握つてしまはなければ駄目である。一羽の鳥でも手に握つてゐれば藪の中にゐる二羽にも匹敵するものだといふのである。
8. 慈善事業などといつて賣名や義理づくで縁の遠い又は全然縁故もないものに義捐をしたり、寄附をしたりして却て自家の子女の教養救済を忽にする者がある。これ等はここの諺をよくよく服膺すべきであらう。先づ己の頭の蠅から拂ふてかゝらねばならぬ。されど慈善は我が家にのみなすべしとの意ではな

い。先づ我が家より始めよといふのであるから、こゝから始めて以て漸次に遠く他人にも及ぼすべきであることは勿論のことである。

9. in time とは「後ればせとならぬうちに」の意。nine の次に stitches を補つて譯すべきである。全文の譯は「手後れとならぬうちに一針縫つておけば、九針省ける」で、轉ばぬ先の用心を勧めた諺である。
10. broth は肉や野菜の汁で薄い簡単なもの。too many cooks とは「料理人の人数が多過ぎると」の意。spoil は「汚す」「悪くする」「だいなしにする」の意これは邦語の「船頭多くして船山に上る」に當る。
11. 「ローマ」へ往つたら、「ローマ」人のする通りにせよ。といふので、邦語の「郷に入つては郷に従へ」に當る諺。「なす」といふ同じ意味の言葉が do と does と二つ出てゐるが、前の do は命令法の動詞で、その主語「汝は」が略されてゐるから、第二人称の動詞 do を用ひてあるのである。又 does の方はその主語が Rome で、第三人稱單數であるから do に es を加へて does としたのである。(十月號第九課参照)「ローマ」は英語では「ロウム」といふ。Rome は固有名詞 (proper noun) だから、常に大文字で書き始めるのである。
12. 邦語の「猫に小判」に當る。pearls は複數形、その單數形は pearl である。swine は單複同形の語。別に pig といふ語がある。これも豕ブタで特に小さい若い豕ブタに用ふるが、屢々用ひられるから序に覺えて置かれたい。
13. spare は「惜む」の意。時間、金錢、骨折などを惜むの「惜む」である。この文の spare も spoil も文法上命令法の動詞であるから、この文の直譯は、「鞭を惜め而して子供を甘やかさせよ」だが、謂ふ所の意義は子供は鞭撻を加へないと増長してならぬから、可愛い子は鞭つて育てろといふのである。この spoil の意味から、甘つたれ子、だいつ子、不良少年などを spoiled (又 spoilt と綴る) child といふ。rod は鞭殊に教鞭の意。従つて懲罰の意に用ふる。こゝの「鞭を惜む」も「懲罰を加へない」の意であることは無論了解し得るであらう。
14. Penny は英國の通貨の名。その複數は Pence である。十二ペンスを一シリング (Shilling) といひ、二十 Shillings を一パウンド (Pound) といふ。Pound は日本語では「ポンド」とよんでゐるが、正しい英語の發音は「パウンド」

であるから間違へぬやうに注意せられたい。この文の意味は「一文惜みの百損」に當る。尙 Pound は數字と共に書くときは £ を數字の前に記し、Shilling は S、Pence は d と略して數字の右肩に記す。例へば £ 5 10^s 3^d は五ポンド、十シリング、三ペンスである。これは實社會で屢々必要な場合があらうから、特に記して置く。

15. この諺は又 Nothing venture, nothing win ^{ウイン} ともいふ。win も「得る」の意である。「虎穴に入らざれば虎兒を得ず」の意。
6. fry は洋食の天麩羅即ち「フライ」で、「フラインぐパン」とは「フライ」を作る鍋のこと。out of は「中から外へ」の意。そこで全文の譯は「フライ鍋の中から火の中へ」となる。これに「飛び込む」を補足して譯すと、意味が通じる。即ち油鍋で煮られる五右衛門の様な苦境を折角脱出したと思つたら又猛火の中へ飛び込むといふので、一難去りて又一難來るの意。
17. fall は「倒れる」といふ意味であるから、全文は「驕る者は倒る」といふ意。驕る平氏久しからず」などは丁度この諺に當る。
18. 「まだ孵化しないうちから雛の數を算へるな」といふので、所謂狸の皮算用の意。序に述べて置くが、この諺の意味を一の物語としたものが、例のインツブ物語に milkmaid (乳搾り女) と題して出てゐる。譯本でもよいから讀んでおかれたらよからう。

フオーティーン
Lesson XIV (第十四課)

インディスペンサブル フレイズ
Indispensable Phrases.
缺くべからざる 語句

1. I congratulate you on your success.
(1) (5) (4) (2) (3)
私は 祝す を あなたの 成功

your は日本語の「御」の字に當る。全文は「御成功を祝します」「御成功御目出度う」の意。注意すべきは、congratulate の次には人を表す語、例へば you とか him とか her とかが來て、on でその次を受け、次にその祝すべき吉事を表す語が來る順序になることである。その心得でこれを應用すれば一切の吉事に喜祝の意を表する文が作れる。

即ち I congratulate you on your promotion ^{プロモーション} といへば「御昇級御目出度」、I congratulate you on your graduation ^{ハツビョー} といへば「御卒業御目出度」、I congratulate you on your happy union ^{ユニオン} といへば「御結婚御目出度」(happy は「幸福なる」、union は「結合」即「縁組」となる。尙この on の代りに upon ^{アツポン} を用ひても同じである。

2. I deeply sympathize with you in your great loss.
(1) (7) (8) (6) (5) (2)
私は 深く 同情する あなたに に於て あなたの
great loss.
(3) (4)
大なる 損失

これは「御不幸で嗚かし御愁傷でござりませう」の意。蓋し人が父母妻子を亡ふほど大なる損失はない。故に great loss とはこれ等近親を喪つた不幸を指すのである。sympathize (同情する) とは「御察し申し上げます」の意。こゝに注意すべきは、sympathize といふ動詞は congratulate のやうに直に you をその次におくことが出來ぬ動詞で必ず with といふ前置詞を人を表す語、例へば you の前に置かれねばならぬこと、your great loss の前には前文のやうに on でなく in を置くことである。この文も great loss の代りに他の凶事を表す語を用ふれば、いくらでも應用の出来る文である。例へば I sympathize with you in your failure ^{フエイリユア} 「御失敗 (落第と譯す場合もある) で御同情申し上げます」 I sympathize with you in your accident ^{アクシデント} 「御災難で御同情申し上げます」 等等

3. I am very glad of it.
(1) (6) (4) (5) (3) (2)
私は ある 甚 喜ばしく ついて それに

喜びの情を表すときに之を用ふる。of it 以下を to で繋いで to see you とすれば「御目にかゝつて嬉しい」の意となり、to hear of it とすれば「それを承つて嬉しい」の意となり、to hear from you とすれば「お便りを得て嬉しい」の意となる。斯様にいろいろ應用して見るがよろしい。

4. I am sorry for it.
アイ アム ソリー フォー イット

for it は續けて「フォ〜リット」と發音する。「それは御氣の毒です」といふ意に用ふる。

5. It cannot be helped.

There is no help for it.

二つとも「それは仕方がない」「如何とも仕様がなない」といふ意。helped の d は t の様に發音する。cannot は會話のときには略して cant といふ。

6. I beg your pardon.

「御免下さい」の意で即ち謝罪する言葉であるが、これは主として人の言葉の聞き取りぬとき又は了解出来ぬときに、問ひ返へす言ひ方である。「失禮ですがモウ一度言つて下さい」といふのである。又略して Beg pardon ともいひ、更に略して單に Pardon ともいふ。これをよく使ひ慣れると非常に便利で、早口に話しかけられて分からぬ場合に何度でも繰返してこれを言へば先方は此方の分るやうに、はつきり、ゆつくりと言ひ直して呉れるであらう。これさへ知つて居れば洋行しても困るまい。尙一言しておくが、日本の學生が此 Pardon を用ふべき場合に往々 Once more (モウ一度) といふが、あれは失禮だから止めたがよい。

7. What is the matter with you? I have

a headache.

8. What is the price of it?

9. It is too expensive. I can't afford

to buy it.

10. This is cheap. The cheaper, the worse.

11. Are you busy, now? I am

at leisure now.

12. I have no time to spare.

13. When shall I find you at home?

「いつ御在宅ですか」の意。find は直譯「見出す」だけれども、元來「往つて見たら…であつた」「來て見たら…であつた」「開いて見たら…であつた」といふ様な風に用ふる語であるから、此處では「いつ御訪ねしたら御在宅ですか」の意である。

14. I hope I shall see you soon again.

shall は未来を表す助動詞、shall see で「見る」「面會する」「お目にかゝる」の意。
 hope の hope は「望む」と譯す、前途有望なりと思ふの「思ふ」に當る。即ちまた
 近々にお目にかゝれることを有望なりと思つてゐるの意で、「近日又お目にかゝりたい
 ものです」の意に用ひ、人と別れるときの挨拶に用ふ。soon again は「スーンナゲン」
 と讀む。

15. ^{メイ} ^{アイ} ^{アスカ} ^{ユーア} ^{アドレス}
 May I ask your address?
 (3) (2) (2)
 伺ひたい あなたの 御住所を

ask は「問ふ」、may は「てもよろしい」、may I ask? で「私は問ふてもよろしい
 か」となる。全文直譯は「御住所を問ふてもよろしうございますか」となるが、may
 I ask は叮嚀に言つたので、全文の意は「御住所は何處ですか伺ひたい」の意である。
 人の指圖を乞ふ場合には、この may I を文の頭におくと、いろいろの用を辨ずること
 が出来る。例へば May I ^{マイアイカム} ^{イン} come in? (come in を讀めて「カミン」と發音する)「進入
 つてもよろしう御座いますか」、May I go out? 「外へ出てもよろしう御座いますか」、
 May I ^{トラブル} trouble you? 「御面倒が願へませうか」等。address の accent は第二スィラブ。

16. ^{ウィル} ^{ユー} ^{ドゥー} ^{ミー} ^ザ ^{ファヴァー}
 Will you do me the favour?
 (5) (1) (4) (2) (3)
 下されませんか あなたは 叶へて 私に 願を

favour は「好意」「恩恵」など、人の有利になることである。do me the favour は
 「好意を行ふ」「有利なことを行ふ」だから、こちらから言へば願ひを叶へて貰ふこと
 になる。そこで譯の様な意味になるのである。

17. ^{ウィズ} ^{プレジャ}
 With pleasure.
 お易い御用です

直譯は「愉快を以て」即ち「悦んで」の意であるから、「喜んでします」「お易い御用
 です」の意となる。

18. ^{ザット} ^{ウィル} ^{ドゥー} ^{ザット} ^{ウィル} ^{ノット} ^{ドゥー}
 That will do. That will not do.
 (1) (2) (2) (2)
 それで よろしい それでは いけない

この do の使ひ方は ^{イヂイム} idiom といつて一種の慣用語で、直譯するわけにはいかない。
 その儘で暗記するがよい。

19. ^{イズ} ^{ザット} ^{オール} ^{イズ} ^{ザット} ^{イズ} ^{オール}
 Is that all? Yes, that is all.
 (3) (1) (2) (1) (2) (4) (3)
 ですか それ だけ はい それ です だけ

all は「總て」、「それが總てであるか」だから「それだけですか」となる。「それ丈で
 はありませぬ」といほうと思へば No, that is not all といへばよい。

20. ^{アイ} ^{ハヴ} ^{メイド} ^ア ^{ミスタイク} ^{イクスキューズ} ^{ミー}
 I have made a mistake. Excuse me.
 (1) (3) (2) (2) (1)
 私は しました 間違を 御免下さい 私を

21. ^{ドゥー} ^{ユー} ^{スピーク} ^{イングリッシュ} ^{アイ} ^{スピーク} ^ア ^{リトル}
 Do you speak English? I speak a little
 (1) (2) (2) (4) (2)
 あなたは 英語を 私は 話します 少々
 (3)
 話しますか

22. ^{イングリッシュ} ^{アイ} ^{カント} ^{イクスプレス} ^{マイセルフ}
 English. I can't express myself.
 (3) (1) (4) (3) (2)
 英語を 私は 出来ぬ 言ひ表すことが 自分の思ふことを

22. ^{ウィル} ^{ユー} ^{プリーズ} ^{スピーク} ^{モア} ^{スロウリ}
 Will you please speak more slowly?
 (5) (1) (4) (2) (3)
 下さい どうぞ 言つて もつと ゆつくり

Will は文法上未来を表はす助動詞であるが、Will you とつゞけて「願ひ」を表はす
 意に用ふる。故に人に「何々して下さい」といふには Will you を文の頭に置く、類例
 Will you ^{カインドリ} ^{ラウド} kindly speak louder? (もつと大きな聲で言ふて下さい、kindly は please と
 同じ意味)。Will you kindly give an answer at your ^{アス} ^{アンサー} ^{アット} ^ア ^{アリエスト} ^{コンヴイニエンス} earliest convenience? (御都合次
 第早速お返事下さい)。尤も Will you を省いて please 又は kindly から始めても願
 ひの文にはなる。

23. ^ア ^{ラウ} ^{ミー} ^{トゥー} ^{イントロデュース} ^{マイセルフ} ^{トゥー} ^{ユー}
 Allow me to introduce myself to you.
 (5) (4) (1) (3) (2)
 御許し下さい 紹介することを 私自身を に あなた

My name is Hachiro Yano.
 (1) (2) (4) (3)
 私の 名は です 矢野八郎

これは自ら名乗りを上げて紹介する仕方である。通例は誰か紹介者があつて、これは矢野八郎君と申す人ですと紹介する。そのときは唯次の挨拶をしきへすればよい。又自ら名乗つたときにも次の挨拶を用ひてよい。

I am very pleased to make your
 (1) (5) (4) (2)
 私は 甚だ なつて あなたの
 (6)
 喜ばしくあります

acquaintance.
 (3)
 知己と

pleased の代りに、前に習つた glad を用ひてもよい。この文は握手に伴つて言ふのだから早口に言へるやうに練習しておかねばならぬ。実際の場合には I am も very も口の中で言つて仕舞ひ、つまり glad to make your acquaintance といへばよい (一を附した語丈強く言つて他は軽く言ふ)。

What is meant by that? It means
 (2) (3) (1) (1) (2) (3)
 どういふ わけですか それは それは といふわけですか

I don't understand you. (人の言葉を理解できぬ意)
 (1) (3) (2)
 私は わかりません あなたのいふことが

I can't tell that. (甲だか乙だか何だかわからぬ意)
 (2) (4) (3) (2)
 私は 出来ません 判断 それが

Which do you prefer, x or y?
 (4) (5) (1) (2) (3)
 どちらを あなたは 甲 と 乙では
 (6)
 好みますか

Which of x or y do you prefer? といふべからず。先づ「どちらを好みますか」といつておいて、それから「甲ですか。乙ですか」といふべきである。この x y は唯記號として擧げたので、之れに wine or beer? (葡萄酒ですか麥酒ですか) とか、a cigar or a cigarette? (葉巻ですか紙巻煙草ですか) といふ風に適當の語を代用すれば廣く應用が出来る。

I prefer this to that.
 (1) (5) (4) (3) (2)
 私は 好みます これを よりも それ

Where can I wash my hand? (便所は何處か)
 (1) (6) (2) (5) (3) (4)
 何處で 出来ますか 私は 洗ふことが [私の] 手を

便所は「字母の實用」の處で述べた如く W. C. (Water closet) であるけれども、これを口にするは露骨で、紳士の言ふべきことでない。そこで「手を洗ふ所はどこか」と問ふのである。

I am much obliged to you.

これは「お蔭さまで」とか「憚りさま」とかいふ意で、Thank you と同じやうに謝禮のときに用ふる。直譯せずにこの儘覺えるがよい。

Don't mention it. Not at all.

この二つは、いづれも、「どう致しまして」といふ意。人から謝禮を言はれたときの挨拶語。

33. Have you ever been in Nikko?
 (1) (2) (4) (3)
 あなたは 今迄に へ 日光
 (5)
 行ったことがありますか

34. I have never been there.
 (1) (2) (3)
 私は まだ そこへ
 (4)
 行ったことはありません

never は「未だ曾て……せず」と、二度繰返して譯す語である。

35. I went there last year.
 (1) (5) (4) (2) (3)
 私は 行きました そこへ 昨 年

year の代りに month を用ふれば「先月」、week を用ふれば「前週」、summer を用ふれば「昨夏」となる。その様にいろいろに應用して見給へ。

36. Did you enjoy yourself?
 (3) (1) (2)
 なさいましたか あなたは 御楽しみ

37. Yes, I enjoyed myself very much.
 (1) (2) (4) (3)
 はい 私は 楽しみました 大層

以上は日常極めて有用な語句であるから、幾度も幾度も繰返して、流暢に言へるやうに、暗誦せば、生涯大いに役に立つであらう。

The End
 (終)

昭和二年 一月十日 印刷
~~大正十六年~~
 昭和二年 一月十五日 發行
~~大正十六年~~

不許複製

版權
 所有

著者 黒川越太郎

東京市赤坂區青山南町一丁目十一番地

發行者 山崎慶一郎

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

印刷者 片桐次朗

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

印刷所 東洋印刷株式會社

英語講義奥附

定價金六拾錢

東京市赤坂區青山南町一丁目十一番地

發行所 琢磨社

振替東京六六一一五番

琢磨社發行書目

著者名	書名	定價	送料
陸軍工兵學校教官 沼田 徳重 著	軍隊教育新論上 (第一期教育)	.70	6
同 右	軍隊教育新論下 (第二期以後教育)	.80	6
陸軍歩兵大尉 山崎 慶一郎 著	新陣中要務令ニ基ク 歩哨斥候教育	.70	4
櫻井忠温氏序 櫻 花 郎 著	西伯利亞戰秘史 小説 吹雪に微笑む	製上 1.50 製並 1.20	8
陸軍歩兵少佐 岡 宮 夙夜 著	青年教練教程全	.50	6
陸軍歩兵大尉 山崎 慶一郎 著	壯丁上等兵になるまで	.50	4
陸軍士官學校教官 友 田 宜剛 述	國 漢 文 講 義	.60	6
同 駒澤瀧 登 述	數 學 講 義	.95	8
同 阿 藤 質 述	理 化 學 講 義	.70	8
同 黒川 越太郎 述	英 語 講 義	.60	6
駒澤大學教授 馬場 文翁 述	倫 理 學 講 義	.60	6

特219

726

終